

いわて 復興の歩み

2011-2014 東日本大震災津波からの復興の記録

陸前高田市

「奇跡の一本松」と「希望のかけ橋」

(平成26年10月撮影)

◎奇跡の一本松

高田松原の約7万本の松の中で、奇跡的に津波に耐えて生き延びた1本の松。復興のシンボルとして平成25年6月に復元が完了。

◎希望のかけ橋

宅地造成工事で発生する土砂を搬出するための全長3kmに及ぶベルトコンベア専用の懸け橋。平成26年3月に稼働を開始し、ダンプトラックによる運搬で約10年かかる作業を、1年2ヶ月まで短縮。

平成26年12月

 岩手県

はじめに	01
1 概況・被害状況と復興計画	02
2 基盤復興期間における復興の状況	04
3 これまでの主な取組	
①防災のまちづくり	06
②交通ネットワーク	08
③教育・文化	09
④生活・雇用	10
⑤保健・医療・福祉	12
⑥地域コミュニティ	14
⑦水産業・農林業	15
⑧商工業・観光	16
⑨情報発信・絆づくり	17
⑩全国・海外からの応援	18
4 三陸創造プロジェクト	20
5 主な復旧・復興事業の今後の見通し	21
6 “いわて復興だより”ダイジェスト	22
7 これまでの復興の歩み	24
岩手県の紹介	

沿岸各地の動画が見られます

本誌内に動画再生のマークがあります。
ご覧になっているメディアに合った方法でご利用ください。



- パソコンの場合
→PDF・電子ブックに掲載しているマークをクリックしてください。
- 冊子またはダウンロードしたPDFをプリントアウトした場合
→スマートフォンやタブレットのアプリ「junaio」を使ってマークをスキャンしてください。

無料ARアプリ「junaio」の使用方法



iOSはAppStore、AndroidはGooglePlayから「junaio」をインストールしてください。アプリを起動し画面右上の「スキャン」をタップし、ページ内のマークにかざすと動画が再生されます。

はじめに

東日本大震災津波から3年9か月になります。あの日、慣れ親しんだ故郷の風景が瞬間に一変し、岩手県では、4,672名もの尊い命が奪われました。犠牲になられた方々に謹んでお悔やみ申し上げます。また、今もなお、1,130名の方々が行方不明となっており、御家族の皆様にご心からお見舞い申し上げます。

振り返りますと、応急復旧に追われる中で復興計画を策定した平成23年、基盤復興の取組を本格化させた平成24年、復興の取組を加速させた平成25年と、県民の皆様が一丸となって取組を進め、本格復興の段階を迎えるに至りました。

その間、犠牲になられた方々の故郷への思いをしっかりと引き継ぐこと、そして、被災された方々の「暮らし」、「学び」、「仕事」を確保し、一人ひとりの幸福追求権を保障していくことを原則として、県政史上かつてない規模の事業に取り組んで参りました。

「いわて復興の歩み」は、主に基盤復興期間（平成23年度～平成25年度）における本県の復興の状況を取りまとめたものです。

これまで、復興道路や災害公営住宅の整備、地域資源を活用した6次産業化の取組など、復興に向けた歩みは着実に進んでおり、県民全体の「地域の底力」、そして、日本全国及び海外から復興を支えてくださる多くの方々の「つながりの力」による復興

の推進に、手ごたえと今後の大きな可能性を感じています。

この小冊子により、本県の復興の状況について御理解いただくとともに、日本全国及び世界中の皆様が、今後、様々な自然災害に立ち向かい、新しい復興を進める上で広く御活用いただきますよう、お願い申し上げます。

私たちは、今、被災地に復興のつち音を高く響かせ、「いのちを守り 海と大地と共に生きる ふるさと岩手・三陸の創造」を目指しています。

そのため、市町村、県、国が一体となり、被災地と被災された皆様に寄り添い、県内外の多様な主体と連携しながら、復興が着実に進むよう、県民の皆様とともに、全力で取り組んで参りますので、引き続き、御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。



平成26年12月11日
岩手県知事

達増拓也



概況・被害状況と復興計画

東日本大震災津波の概況 (岩手県災害対策本部調べ)

- ▶名称(発生日時) 東日本大震災津波(平成23年3月11日(金)14時46分頃)
※地震による震災の名称について、政府は「東日本大震災」としていますが、岩手県では「東日本大震災津波」と表記することとしています。
- ▶震源地 三陸沖・牡鹿半島の東南東約130km付近(北緯38°06.2'／東経142°51.6')
- ▶震源の深さ・規模 24km・マグニチュード9.0(モーメントマグニチュード)
- ▶本県の最大震度 震度6弱:大船渡市、釜石市、滝沢村、矢巾町、花巻市、一関市、奥州市、藤沢町
- ▶津波の最大波 [宮古]11日15時26分 8.5m以上 [釜石]11日15時21分 4.2m以上 [大船渡]11日15時18分 8.0m以上 [久慈港]8.6m(推計値)

岩手県における被害状況

痕跡高・死者数・行方不明者数・家屋倒壊数
(平成26年11月30日現在)

- 洋野町** 痕跡高…洋野・久慈北海岸12.0m
家屋倒壊数 …… 26棟
- 久慈市** 痕跡高…久慈湾13.7m
死者数… 2人/行方不明者数…2人
家屋倒壊数 …… 278棟
- 岩泉町** 痕跡高…岩泉海岸20.2m
死者数… 7人
家屋倒壊数 …… 200棟
- 大槌町** 痕跡高…大槌湾15.1m
死者数… 803人/行方不明者数…427人
家屋倒壊数 …… 3,717棟
- 釜石市** 痕跡高…両石湾22.6m
死者数… 888人/行方不明者数…152人
家屋倒壊数 …… 3,655棟



- 野田村** 痕跡高…野田湾21.4m
死者数… 38人
家屋倒壊数 …… 479棟
- 普代村** 痕跡高…普代海岸18.4m
行方不明者数 …… 1人
- 田野畑村** 痕跡高…田野畑海岸23.0m
死者数… 14人/行方不明者数…15人
家屋倒壊数 …… 270棟
- 宮古市** 痕跡高…重茂海岸21.8m
死者数… 420人/行方不明者数…94人
家屋倒壊数 …… 4,098棟
- 山田町** 痕跡高…船越湾19.0m
死者数… 604人/行方不明者数…148人
家屋倒壊数 …… 3,167棟
- 大船渡市** 痕跡高…綾里湾23.8m
死者数… 340人/行方不明者数…79人
家屋倒壊数 …… 3,937棟
- 陸前高田市** 痕跡高…広田湾18.3m
死者数… 1,556人/行方不明者数…207人
家屋倒壊数 …… 4,045棟

- 内陸部**
行方不明者数 …… 5人
家屋倒壊数 …… 1,844棟
- 本県全体**
死者数 …… 4,672人
行方不明者数 …… 1,130人
家屋倒壊数 …… 25,716棟

※死者数は直接死のみ(岩手県警調べ)。
※家屋倒壊数は、全壊及び半壊数。
※痕跡高は、堤防付近での測定値(「岩手県沿岸における海岸堤防高さの設定について」による)。



○産業被害額 (平成23年11月25日現在)

●農林業	984億円
●水産業、漁港	5,649億円
●商工業	1,335億円
●観光業(宿泊施設)	326億円
●合計	8,294億円

○公共土木施設被害額 (平成23年7月25日現在)

●河川、海岸、道路等施設	1,723億円
●公園施設	405億円
●港湾関係施設	445億円
●合計	2,573億円

○津波浸水範囲の土地利用構成率

田	その他の農用地	森林	建物用地
17%	4%	9%	34%

(平成23年4月18日国土地理院「津波浸水範囲の土地利用別面積について」による)

○推定資本ストック被害額・被害率

(単位:10億円)

	推定資本ストック A	推定資本ストック被害額					被害率 B/A	GDP値 C	被害額がGDPに占める割合 B/C	
		生活・社会インフラ	住宅	製造業	その他	合計 B				
岩手県	内陸部	26,369	457	22	64	211	754	2.9%	4,255	1.0年分
	沿岸部	7,449	1,943	607	191	781	3,522	47.3%		
	合計	33,818	2,400	629	255	992	4,276	12.6%		

※推定資本ストック被害額及び被害率については、株式会社日本政策投資銀行推計(平成23年4月28日)
※GDP値は、「平成21年度の県経済計算について」(平成24年2月29日 内閣府経済社会総合研究所国民経済計算部)による

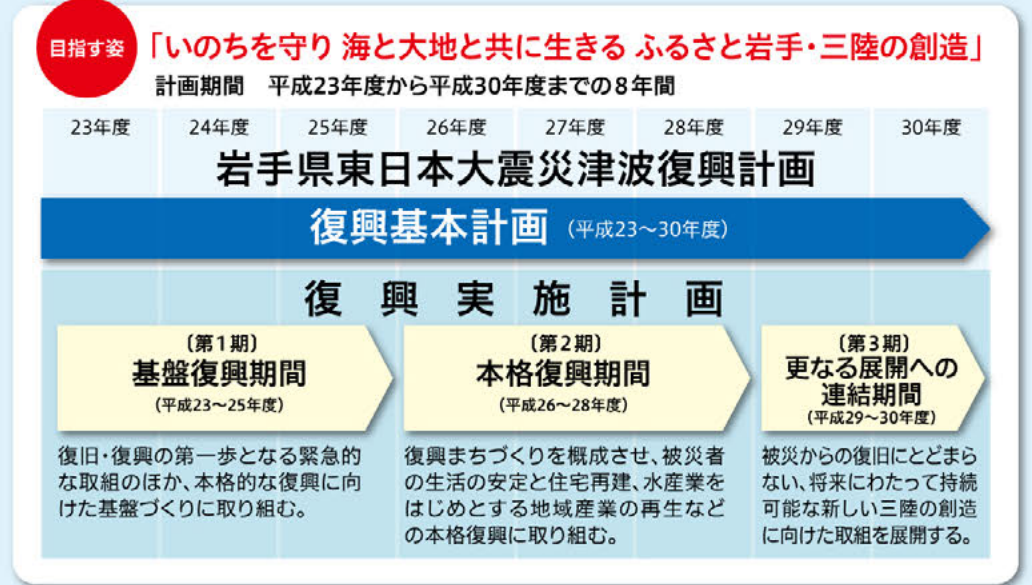
○応急仮設住宅等への入居状況 (平成26年10月31日現在)

	応急仮設住宅	応急仮設住宅等				合計
		みなし仮設				
		民間賃貸住宅	雇用促進住宅	公営住宅等	みなし仮設計	
戸数(戸)	10,637	1,836	529	127	2,492	13,129
人数(名)	23,201	4,535	1,606	348	6,489	29,690



岩手県東日本大震災津波復興計画

岩手県では、今回の震災を乗り越えて力強く復興するための地域の未来の設計図として、平成23年8月11日に「復興計画」を策定しました。
この計画に基づき、再び津波によって命が失われることのない、より安全で暮らしやすい地域を創り上げていきます。



問合せ先▶復興局復興推進課 ☎019-629-6945

基盤復興期間における復興の状況

(平成23年度～平成25年度)



復興レポート
陸前高田市

陸前高田市(平成26年5月)

※進捗状況は特記のない場合、平成26年3月31日現在のものです。

暮らしの再建

応急仮設住宅等入居者数(みなし仮設を含む)
ピーク時(平成23年10月)43,738人



災害公営住宅整備戸数
整備予定戸数5,969戸



被災者生活再建支援制度加算支援金申請件数
基礎支援金申請件数 23,155件
加算支援金申請件数 7,906件



医療施設数(沿岸地区)
217施設(震災前(H23.3)比90%)

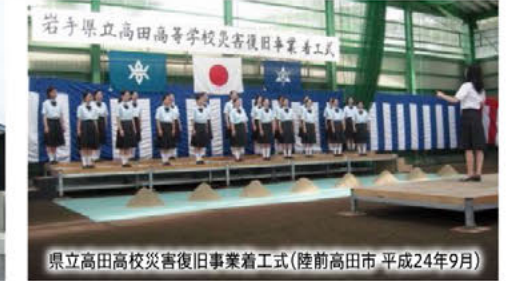


※自院または仮設施設において診療を行っている医療機関(病院・内科診療所・歯科診療所)

公立学校施設の復旧状況(沿岸地区)
被災学校数 86校



公立文化施設・体育館の復旧状況
被災施設数 70施設



安全の確保

災害廃棄物の処理
災害廃棄物推計量525.3万トン



海岸保全施設の復旧・整備箇所数
計画箇所数 134箇所



面整備事業箇所数
事業箇所数 158箇所



復興道路供用延長キロ数
計画延長 393km



宅地供給区画数
予定宅地区画数 8,291区画



なりわいの再生

産地魚市場水揚量
震災前3年間(H20～22)の平均 169,627トン



養殖生産量
震災前3年間(H20～22)の平均 47,692トン



農地の復旧面積
復旧対象面積 450ha



被災事業所における事業再開の有無
対象事業所数 1,778事業所



被災事業所における業績(売上)状況
対象事業所数 1,778事業所



主要観光地の入込客数
震災前(H22)470.3万人回



※県内主要観光地14箇所を対象



これまでの主な取組



三陸鉄道北リアス線全線運行再開 (平成26年4月)

① 防災のまちづくり

復興レポート
宮古市

■ 災害廃棄物(がれき)の処理

約584万トン[本県一般廃棄物約13年分]の処理を終了

大震災津波により約584万トンの災害廃棄物が本県で発生しましたが、県内外の自治体の協力や、多くの関係者・住民の皆様のご理解とご支援に支えられ、平成26年3月末までにその処理を終えました。



宮古市赤前地区・宮古運動公園 平成23年11月撮影



同左 平成25年8月撮影

災害廃棄物の広域処理先

青森県	61,004ト
宮城県	4,326ト
秋田県	37,538ト
山形県	77,688ト
福島県	12,131ト
群馬県	7,673ト
埼玉県	1,109ト
東京都	106,007ト
神奈川県	162ト
新潟県	294ト
富山県	1,256ト
石川県	1,961ト
福井県	6ト
静岡県	3,207ト
大阪府	15,299ト
合計	329,661ト (1都1府13県)

■ 海岸保全施設等の復旧・整備

復興まちづくりと一体となった防潮堤・水門等の復旧・整備

被災した防潮堤等の海岸保全施設の復旧・整備に当たっては、高潮等の被害が予想される箇所について、仮防潮堤を築造する等の応急工事を実施したほか、津波、都市計画及び地震等の専門家で構成される「岩手県津波防災技術専門委員会」を設置し、各市町村から復興まちづくりの方向性を伺いながら、科学的・技術的な知見に立脚した防潮堤の高さや配置の検討を進め、平成23年10月までに本県沿岸を24の地域海岸に区分し、防潮堤等の高さを公表しています。

また、海岸保全施設の早期整備のため、事業用地の取得に当たり、任意交渉と平行した土地収用手続を進めてきたほか、工期短縮や資材不足等へ対応するため、工場製品の活用などの取組を進めてきました。

この結果、平成25年度末時点で、復旧・整備が必要な134箇所のうち、105箇所ですべて工事に着手するとともに、22箇所ですべて完了しています。

海岸堤防高さの設定 >> <http://www.pref.iwate.jp/kasensabou/kasen/fukkyuu/008326.html>

高田地区海岸の復旧工事の状況



被災前(平成22年3月)

被災直後

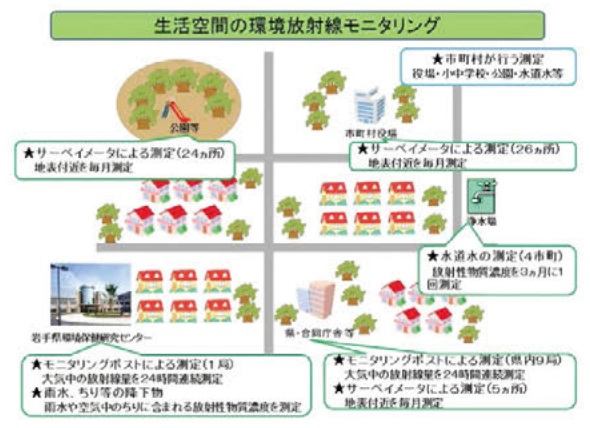
平成26年3月末

■ 環境放射能水準調査の実施

測定結果をリアルタイムで公表

生活空間の放射線量や、大気中のちり、降水(雨、雪)、水道水、農林水産物などに含まれる放射能を県内10地点で測定し、その結果をホームページで公表しています。

放射能に関する情報
>> <http://www.pref.iwate.jp/houshasen/>



サーベイメータによる測定

■ 再生可能エネルギー設備の導入支援

さらなる地域の防災力向上に向けて

地域の防災拠点となる市町村庁舎・消防署・病院や、災害時の避難所となる学校・公民館などへの太陽光発電設備、蓄電池、ソーラー街路灯などの設置を進めています。

また、避難階段への太陽光発電式防犯灯や応急仮設住宅団地内敷地への小型風力発電システムの設置など、公共施設への小規模クリーンエネルギー設備の導入を支援しています。



保育所に設置した太陽光発電設備(野田村)



庁舎屋上に設置した太陽光発電設備(洋野町)

②

交通ネットワーク



三陸鉄道の復旧

全国的に注目を浴びる中、平成26年4月に全線運行再開

三陸鉄道は、震災により、橋梁、レール、駅舎の流出など計317か所に及ぶ被害を受け、全線不通となりましたが、多くの企業、団体、個人の皆様からの支援により、平成26年4月に全線で運行を再開しました。

平成25年にはNHK連続テレビ小説「あまちゃん」に「北三陸鉄道」として登場し、全国的に注目を集めています。



津波により線路が流失 (田野畑村 平成23年3月)



南リアス線全線運行再開記念列車出発式 (大船渡市 平成26年4月5日)

三陸復興道路の整備

復興へ向け、かつてないスピードで整備中

災害に強い道路ネットワークを構築するため、三陸沿岸の縦貫軸及び内陸部と沿岸部を結ぶ高規格幹線道路等である「復興道路」、内陸部と沿岸部の各都市を結ぶ横断軸等の「復興支援道路」、沿岸部の防災拠点等へアクセスする「復興関連道路」をそれぞれ整備してきました。

中でも復興道路は、震災以降平成25年度末までに5区間43.2kmが供用され、残る区間についてもかつてないスピードで整備が進んでいます。



平成24年11月4日 釜石花巻道路(釜石～釜石西)起工式



平成26年3月23日 三陸沿岸道路高田道路開通式

岩手県内の復興道路等計画路線

復興道路の整備効果

時間短縮	
沿岸各都市間、内陸と沿岸の所要時間が短縮	
災害に強い道路の確保	
災害時でも安全で安心な通行が可能	
渋滞解消(交通の分散)	
交通量が分散し、渋滞の解消効果が期待	
その他の効果	
走行経費削減、交通事故解消、走行快適性向上等	

復興道路 □□□□ : 供用区間
復興支援道路 □□□□ : 未供用区間
復興関連道路 □□□□



③

教育・文化



沿岸被災地への訪問学習 (平成24年5月)



防災教育教材(DVD)を活用した授業 (平成26年6月)

文化・芸術による支援

文化芸術の力で子どもたちに笑顔を

復興支援の一環として、ルーヴル美術館学芸員を招いてのワークショップや、県立美術館職員が気軽に美術に触れ合い、体験する機会を提供する「あーとキャラバン事業」を実施しています。

また、被災地を対象に、小・中学校などを会場にして、器楽演奏、人形劇、演劇など、芸術家の派遣公演を行う「文化芸術による子どもの育成事業」を実施しています。



清里フィールドバレエ

埋蔵文化財保護を生かした地域社会の再興

震災復興事業との両立と歴史的な価値の発信

復興計画に基づく各種事業の進捗に伴い、遺跡の発掘調査量が増加する中、全国からの支援職員の受入や職員の増員により、復興の妨げとならぬよう迅速な調査を実施しています。

また、復興事業現場において、調査を行った遺跡の現地説明会を実施するなど、地元教育委員会と協力しながら、地域の皆様に向けてその歴史的な価値の発信に取り組んでいます。



遺跡の現地説明会 (大槌町)

いわての学び希望基金

子どもたちの「暮らし」と「学び」のために

県では、被災地の子どもたちの「暮らし」と「学び」を支援するため、「いわての学び希望基金」を設置し、全国・海外の皆様からの善意の寄附を広く募っています。

皆様からご支援いただいた寄附金は、14,081件、70億円(平成26年10月末現在)となり、親をなくした子どもたちへの奨学金のほか、高校生の教科書購入費用や部活動の遠征費など、被災地の子どもたちを末永く支援していきます。

問合せ先▶▶ 復興局復興推進課 ☎019-629-6922

「いわての復興教育」

震災の教訓から得た3つの教育的価値『いきる』『かかわる』『そなえる』

郷土を愛し、その復興・発展を支える人材を育成するため、県内全ての公立小・中学校及び県立高等学校・特別支援学校では、「いわての復興教育」プログラムに基づきながら、震災津波の教訓から得た3つの教育的価値を育てています。

また、震災津波を風化させることなく、児童生徒が3つの教育的価値を学ぶことができるよう、副読本や防災教育教材(DVD)を活用しながら、各学校の実情に応じた取組を展開しています。

震災の教訓から得た3つの教育的価値

- ◆生命や心について『いきる』
震災津波の経験を踏まえた生命の大切さ・心のあり方・心身の健康
- ◆人や地域について『かかわる』
震災津波の経験を踏まえた人の絆の大切さ・地域づくり・社会参画
- ◆防災や安全について『そなえる』
震災津波の経験を踏まえた自然災害の理解・防災や安全



副読本 (小学校低学年用)

問合せ先▶▶ 「いわての復興教育」教育委員会事務局学校教育室 ☎019-629-6147
「防災教育教材(DVD)」総務部総合防災室 ☎019-629-5155

④ 生活・雇用

復興レポート
釜石市・大槌町



野田村門前小路第1災害公営住宅(平成25年3月25日完成)



釜石市平田地区災害公営住宅(平成26年1月24日完成)

■ 災害公営住宅の整備・住宅再建支援
恒久的な住宅供給のために

住宅を失った方への恒久的な住宅供給対策として、平成23年10月に「岩手県住宅復興の基本方針」を策定し、災害公営住宅の整備、民間持家住宅(自力再建)及び民間賃貸住宅への支援による住宅の再建支援に取り組んでいます。そのうち、災害公営住宅については、県と12市町村が連携して約6千戸を整備する計画であり、また、持家による住宅再建に対しても、市町村と共同で様々な補助事業を実施しています。

災害公営住宅市町村別整備戸数		
市町村	整備予定戸数	うち完成戸数
洋野町	4	4
久慈市	11	11
野田村	100	33
田野畑村	63	43
岩泉町	51	51
宮古市	793	52
山田町	777	72
大槌町	980	148
釜石市	1,342	237
大船渡市	801	128
陸前高田市	1,000	120
一関市	24	0
合計	5,946	899

(平成26年10月31日時点)

災害公営住宅の整備状況》 <http://www.pref.iwate.jp/kenchiku/saigai/kouei/009718.html>

住まいの改修・再建》 <http://www.pref.iwate.jp/kenchiku/saigai/saiken/index.html>

■ 応急仮設住宅におけるコミュニティの活性化
支え合い体制の構築

応急仮設住宅等における支え合い体制の構築のため、市町村、NPO、ボランティア等と連携し、生活支援相談員や仮設団地支援員による個別訪問、安否・見守り活動や生活相談等の支援を実施しています。そのほか、NPOや社会福祉協議会による「お茶っこ会」など、住民が気軽に集える場をつくり、応急仮設住宅におけるコミュニティづくりを実施しています。



応急仮設住宅集会所での交流

■ 県外避難者交流会の開催
ふるさとを離れた方への交流支援

被災により、1,700人余り(平成26年10月現在)の方が本県から他の都道府県に移動しています。県では、ふるさとから遠く離れている方のために、移動先の自治体や支援団体等が主催する交流会で復興局の職員が情報提供や相談対応を行っています。



県外避難者との交流会

県外避難者の避難先と人数	
地域	人数
北海道・東北	449
関東	869
中部	164
近畿	96
中国・四国	56
九州・沖縄	79
合計	1,713

(平成26年10月31日現在)

(参考) 内陸移動者の移動先と人数			
市町村	人数	市町村	人数
盛岡市	1,161	葛巻町	4
花巻市	412	岩手町	2
北上市	435	紫波町	196
遠野市	252	矢巾町	105
一関市	456	西和賀町	3
二戸市	22	金ケ崎町	21
八幡平市	7	平泉町	10
奥州市	178	住田町	194
滝沢市	203	軽米町	3
雫石町	33	合計	3,697

(平成26年10月31日現在)

■ 暮らしの安心ガイドブックの作成
生活再建に係る支援事業や相談窓口等を一冊に

平成23年11月から、被災者の生活再建に係る支援事業や相談窓口等を掲載した「暮らしの安心ガイドブック」を作成・配布し、被災した方々の不安や課題が解消されるよう、分かりやすい情報提供を行っています。「暮らしの安心ガイドブック」は県内外の被災者の皆様に漏れなく行き届くようにしており、また、最新版(平成26年7月発行)では、目の不自由な方にもご活用いただけるように、全ページに音声コードを配置しました。

暮らしの安心ガイドブック》 <http://www.pref.iwate.jp/saiken/jouhou/18239/001820.html>

問合せ先》復興局生活再建課 ☎019-629-6926

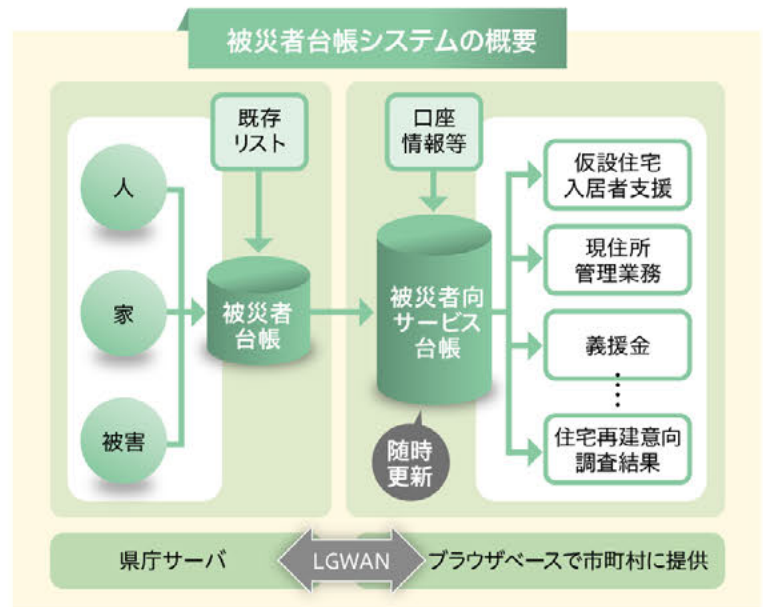


「暮らしの安心ガイドブック」(平成26年度版)

■ 被災者台帳システムの構築
被災者情報の共有により
きめ細かな支援へ繋げる

京都大学・新潟大学を中心とする支援プロジェクトチームの協力により、「岩手県被災者台帳システム」を構築しました。このシステムを導入した7つの市町村では、発災時の住民基本台帳データに基づき、被災状況、支援の実施状況、相談記録や住宅の再建意向などの被災者情報を登録、庁内で共有し、きめ細かな被災者の生活再建支援に活用しています。

問合せ先》復興局生活再建課 ☎019-629-6926



■ 被災者相談支援センターの設置
生活の再建に向けて様々な相談に対応

生活再建に係る各種支援制度や今後の生活への不安、相続、離婚、不動産、債務など、様々な相談に対応しています。弁護士などによる専門家相談も行っています。



開設当初のセンター(釜石地区)

被災者相談支援センター

久慈地区 ☎0120-934-755 / 宮古地区 ☎0120-935-750
釜石地区 ☎0120-836-730 / 大船渡地区 ☎0120-937-700

岩手県庁被災者専用相談ダイヤル

☎0120-180-279(いわてにつなぐ)

■ 地域の雇用創出
被災求職者の生活の安定を図り、被災地の復興を支える

安定的な雇用及び地域の中核となる産業や地域経済の活性化に資する雇用を創出することにより、被災求職者の生活の安定を図り、被災地の復興を支えるため、被災求職者の雇入れに係る費用に対し、1人当たり3年間で最大225万円の助成を行っています。

平成25年度までの助成対象労働者数	
年度	人数
平成23年度	139人
平成24年度	5,332人
平成25年度	7,900人
合計	13,371人

⑤

保健・医療・福祉



応急仮設住宅集会所での健康チェック

■ こころのケアの取組

被災者1人ひとりの心に寄り添う

■ 岩手県こころのケアセンターの設置

被災者の精神的負担を軽減するため、県内外のチームの支援により、「こころのケア」活動を行い、発災から平成24年3月末までに、延べ30チームの派遣を受け入れ、延べ約9,800人の住民のケアに取り組みました。

この活動を引き継ぎ、平成24年2月に、岩手医科大学内に「岩手県こころのケアセンター」を、3月には、沿岸4箇所(久慈市・宮古市・釜石市・大船渡市)に「地域こころのケアセンター」を設置し、被災者一人ひとりに寄り添ったこころのケアを推進しています。



岩手県こころのケアセンター開所

■ いわてこどもケアセンターの設置

震災により大きなストレスを抱えながら生活する子どもたちの心のケアに対応するため、平成23年6月に「子どものこころのケアセンター」を宮古市に開設、気仙地区・釜石地区にも同センターを順次開設し、子どもや家族、保育士や教員からの相談を受けてきました。

また、平成25年5月には、中長期的に継続した支援を行う拠点として、クウェート国・日本赤十字社の支援により、「いわてこどもケアセンター」を矢巾町に開設しました。



多職種によるケアチーム

■ 被災地における医療確保支援

慣れ親しんだ地域で健康で安心して暮らせるように

■ 岩手県医師会高田診療所の開所

平成23年8月、気仙地区への医療支援を目的に、岩手県医師会が陸前高田市に診療所を開設しました。診療には、県内外からの応援医師があたり、地域医療の大きな支えになっています。



岩手県医師会高田診療所

■ 被災県立病院への民間からの支援

民間企業から高田・大槌・山田の各県立病院に、医療機器を搭載した本県初のドクターカー3台が寄贈され、応急仮設住宅等への訪問診療活動などに活用されています。

また、大槌病院には、民間団体から簡易型診療施設が寄贈され、現在も、その施設で外来診療が行われています。



県内初の認可となったドクターカー



簡易型診療施設(現在の県立大槌病院)

■ 被災地における保健活動

長期化する応急仮設住宅生活に対応した予防医療

県、市町村や関係機関が連携しながら、看護職員が応急仮設住宅等を定期的に巡回するなどし、血圧測定などの健康チェックから日常の健康相談、健康教育などを行っています。

また、県歯科医師会及び県歯科衛生士会の協力のもと、被災地に歯科医師・歯科衛生士を派遣し、歯科健診、歯科相談、歯磨き指導等の歯科保健活動を実施しています。

■ 被災地における高齢者の交流促進

いつまでも健康・元気で生きがい創造

■ 被災地高齢者ふれあい交流促進

応急仮設住宅で生活している高齢者の方に、健康で元気な生活を送っていただけるよう、応急仮設住宅とその地域にお住まいの方を含めた皆さんの交流の場として「世代間交流ふれあいフェスタ」や「ふれあい運動教室」を開催しました。



ふれあい運動教室

■ 被災市町村地域支え合い体制づくり

高齢者の方が震災後の生活の中で、自ら新たな役割や生きがい創造する地域活動に対して費用を助成しています。

岩泉町小本地区では、料理教室やノルディックウォーキング、マッサージ教室などの多彩な活動を毎月5~10回ほど行っているほか、地域のボランティアスタッフと協力し、菜園での野菜作りに取り組むなど、積極的に住民同士の交流を深めています。



岩泉町小本地区における交流

■ 「岩手県防災ボランティア活動推進指針」の策定

官民協働で効率的な防災ボランティア活動へ

ボランティア活動は、被災地のマンパワー不足を補うのみに留まらず、柔軟できめ細かな支援活動により、多くの被災者を支えました。

一方で、発災後しばらくの間、経験不足等に起因するNPO等の受入れをめぐる混乱や、関係機関の連携が十分に行われなかったなどの課題も指摘されました。

こうした課題を踏まえ、平成26年3月に官民協働で、「岩手県防災ボランティア活動推進指針」を策定し、非常時における円滑なボランティアの受け入れに備えています。



総合防災訓練

岩手県防災ボランティア活動推進指針 ▶ <http://www.pref.iwate.jp/fukushi/chiiki/fukushisuishin/023266.html>

■ 岩手県災害派遣福祉チームの設置

オール岩手で災害時の福祉を確保

今回の震災の経験を踏まえ、平成25年度に、県、福祉関係団体等と官民学共同により、大規模災害時において、避難所等の高齢者や障がい者などの福祉・介護等のニーズ把握や応急支援などを担う「岩手県災害派遣福祉チーム」を設置しました。

平成25年度には、所定の研修を受講した福祉専門職員約200名がチーム員として登録されました。



チーム員研修

岩手県災害派遣福祉チーム ▶ <http://www.pref.iwate.jp/fukushi/chiiki/fukushisuishin/023589.html>

⑥

地域コミュニティ

■ NPO等が行う復興活動を支援

復興支援の担い手の運営力を強化

NPOは、その機動力、ネットワーク、専門性を活かし、復興支援活動を始め様々な分野での課題解決に大きな役割を果たしています。

県は、平成25年度から「NPO等による復興支援事業」を実施し、NPO等が行う復興活動への助成や団体の運営基盤を強化するための支援を行っており、平成25年度は21団体に活動費助成を行いました。



助成事例

①

子どものキラキラ体験遊び支援

震災の影響で萎縮しがちな子ども達の感性を豊かに育てるため、アート遊びや、音遊びなどを実施しました。

助成事例

②

NPOを支える「被災地支援センター」の設置



被災地で活動するNPOへの支援や情報共有のための場として「被災地支援センター」を設置しています。

問合せ先▶環境生活部若者女性協働推進室 ☎019-629-5198

■ 住民主体のまちづくり支援

笑顔と希望あふれるふるさと再生

被災地がふるさとの景観を守り育て、新たに良好な景観を築き上げていくために、県では、平成24年度に「ふるさと景観再生の手引き」を作成しました。

また、平成25年度には、復興まちづくりが着実に進捗しているなか、地域らしい「景観」、親しみのある「ふるさと」再生のため、そこに住む予定の方々と「まちづくり検討会」等を開催し、「景観と暮らしのデザインガイド」をまとめました。



まちづくり検討会(野田村)

「景観と暮らしのデザインガイド」▶ <http://www.pref.iwate.jp/toshigesui/machizukuri/23155/027245.html>

■ 若者・女性の復興への参画

住民一人ひとりが復興の主役

県は、被災地で活動している若者や、県内の様々な分野で活躍している女性との意見交換会を開催してきました。

また、防災や復興に男女共同参画の視点を取り入れながら、復興が加速するよう、講演会とワークショップを組み合わせた「防災・復興について考えよう～男女共同参画の視点から～」を沿岸4地域(大船渡市、釜石市、宮古市、久慈市)で開催しました。



女性との意見交換会(平成25年7月)



若者との意見交換会(平成26年1月)

⑦

水産業・農林業



早期復旧に向け漁協が核となって漁船を一括整備(首節漁港)

■ 漁船・共同利用施設・種苗生産施設等の復旧・整備

漁業者の生産活動の早期再開を支援

壊滅的な被害を受けた本県水産業の早期復旧・復興に向けて、漁協による漁船や養殖施設の一括整備、集荷場や作業場等の共同利用施設の復旧・整備などに取り組んできました。

その結果、平成26年10月現在、漁船や養殖施設は目標の9割以上整備され、養殖ワカメの生産量は約7割、アワビの漁獲量は震災前の水準まで戻ると、漁業の復興が進んでいます。

今後は、更なる生産回復に向けて、新規就業者の確保や意欲ある漁業者の育成など、担い手対策を進めながら、6次産業化の促進などにより付加価値向上に取り組んでいきます。

漁船等の整備状況・種苗等の生産供給状況

区分	目標値	実績値	進捗率
漁船(累計)	6,693隻	6,444隻	96.3%
養殖施設(累計)	17,480台	17,329台	99.1%
サケ稚魚生産数(25年度)	4億尾	3.9億尾	97.5%
ウニ種苗供給数(25年度)	200万個	240万個	120.0%
アワビ種苗生産数(25年度)	100万個	120万個	120.0%

(平成26年10月31日現在)

■ 産地魚市場を核とした流通・加工体制の構築

地域に根ざした水産業の復興

漁業と流通・加工業の一体的な再生のため、県では、荷捌き施設、製氷・貯氷施設、冷凍・冷蔵施設、水産加工施設などの復旧・整備等、産地魚市場を核とした流通・加工体制の構築を進めています。

平成26年8月現在、被災した県内全ての産地魚市場が再開し、水揚量は震災前の約6割まで、製氷・貯氷、冷凍・冷蔵の各能力は概ね震災前の水準まで回復したほか、被災した水産加工事業所の8割が事業を再開しています。今後は、新設復旧した産地魚市場や水産加工場の連携により、漁獲から流通・加工までの一貫した高度衛生品質管理体制を構築することで、産地競争力を高め、震災により失った販路の回復・拡大を図っていきます。



高度衛生管理型魚市場の整備(平成26年4月完成 大船渡魚市場)

主要4港(久慈、宮古、釜石、大船渡)の製氷・冷蔵能力復旧状況

区分	震災前①	復旧状況②	②/①
製氷	535t/日	637t/日	119.1%
貯氷	13,160t	13,355t	101.5%
冷凍(凍結)	1,691t/日	1,551t/日	91.7%
冷蔵	136,912t	118,876t	86.8%

(平成26年8月31日現在)

■ 県産農林水産物の安全・安心と魅力の発信

風評被害対策と販路の回復・拡大

原発事故に伴う県産農林水産物の風評被害対策と、縮小した販路の回復・拡大に向け、全国の消費者やシェフ等を対象とした生活情報誌・電車広告・料理専門誌等でのPR、大都市圏での物産フェアや商談会、産地見学会などに取り組み、県産農林水産物の安全・安心と魅力の発信を行いました。

しかし、依然として乾いたけは価格低迷が続いているほか、関西圏ではワカメなどの海藻類で取引の縮小等の風評被害があることから、引き続き、消費者の信頼回復と、県産農林水産物の販路の回復・拡大に向けた取組を進めていきます。



食品事業者や流通業者とのマッチングを図る商談会の開催



首都圏シェフを招いての産地見学会の開催

⑧
商工業・観光

■ 被災地における起業支援

さんりくの起業促進と魅力ある産業の創出

被災地における起業を促進し、魅力ある産業の創出による地域経済の活性化を図るため、平成25年度から「さんりく未来産業起業促進事業」により起業希望者の支援を実施しています。

平成25年度は25名の方がこの事業を活用して起業しており、平成26年度は29名の方が起業する見込みです。



業種も多岐に渡っており、産業や雇用の創出だけではなく地域コミュニティの再生にも寄与しています

問合せ先▶ 復興局産業再生課 ☎019-629-6931

本制度を活用し起業した事業

- 地域資源を活用した食品加工業
- 染織物製造販売
- 観光業
- 地元食材を活用した飲食業
- ソフトウェア開発
- 理美容業
- リラクゼーションカフェ
- 工務店及び関連資材販売 ほか

■ 三陸復興商品力向上プロジェクト

民間企業との協働による被災企業復興支援

県と民間との協働により、水産加工業などの販路回復や取引拡大を目指した商品力の向上を支援するため、平成24年10月に「三陸復興商品力向上プロジェクト」を立ち上げ、相談会を開催して県内108社(平成25年度末現在)の相談に応じたほか、東京都内の岩手県アンテナショップで、開発・改良した商品のテストマーケティングを実施しました。



相談会の様子

■ 企業誘致の取組

被災地域の魅力ある雇用の場の創出

被災地域における魅力ある雇用の場の創出と経済の活性化を実現するため、復興支援制度を活用しながら、復興を支える企業の誘致に取り組み、平成23年度から25年度までの3年間で、沿岸地域へ13社の企業立地に繋がりました。



宮古市へ誘致・再建した企業

誘致企業数と新規雇用者数		
年度	誘致企業数	新規雇用者数
平成23年度	6社	333人
平成24年度	4社	95人
平成25年度	3社	74人
合計	13社	502人



「いわてDC」クロージングセレモニー

■ “いわてDC”“あまちゃん”を契機とした観光振興

観光入込客数が、概ね震災前の水準まで回復

平成24年4月から6月までの3ヶ月間、『いわてDC(デスティネーションキャンペーン)』を展開し、JRとのタイアップによる全国への情報発信や、二次交通の充実、旅行商品の造成・販売促進、県内各地における各種イベントの実施など誘客の強化に取り組みました。

また、平成25年度には、復興応援バスツアーの拡充や、NHK連続テレビ小説「あまちゃん」の話題性を生かした県北・沿岸地域の情報発信を強化し、「あまちゃん」の放映による誘客効果の維持拡大を行いました。

こうした取組の結果、平成25年度における県全体の観光入込客数が概ね震災前の水準まで回復(沿岸地域も7割以上まで回復)しています。

観光客入込客数の状況				
圏域	平成22年度	平成25年度	平成22年対比	
県央 (盛岡市、八幡平市、滝沢市、雫石町、岩手町、葛巻町、紫波町、矢巾町)	860万人回	999万人回	116.1%	
県南 (花巻市、北上市、遠野市、一関市、奥州市、西和賀町、金ケ崎町、平泉町)	1,117万人回	1,150万人回	102.9%	
沿岸 (宮古市、大船渡市、釜石市、陸前高田市、住田町、大槌町、山田町、岩泉町、田野畑村)	529万人回	403万人回	76.2%	
県北 (久慈市、二戸市、普代村、野田村、軽米町、九戸村、洋野町、一戸町)	280万人回	342万人回	122.1%	
合計	2,786万人回	2,894万人回	103.8%	

⑨
情報発信・絆づくり

■ 「いわて三陸復興フォーラム」の開催

復興の今を伝え、復興への参画を促進

被災地域の現状や復興の取組についての情報を発信するため、「いわて三陸復興フォーラム」を、県内・県外で開催し、復興の取組に対する理解や、継続的な支援、参画の促進を図っています。

今後も、継続的に開催することで、震災の記憶の風化防止に努めながら、県内外の皆様との継続的な連携を図っていきます。



「いわて三陸復興フォーラム in 名古屋」(平成25年12月)

■ 海外へ向けた情報発信

世界に向けて復興に立ち上がる本県の姿を発信

復興支援を頂いた皆様に深い感謝の意を伝えるとともに、復興に向けて立ち上がる本県の情報を、海外へ向けて発信しています。

平成25年度は、米国ニューヨーク市において、平成26年度は、仏国パリ市において「東日本大震災津波岩手県復興報告会」を開催し、知事から復興支援に対する御礼と復興の取組を紹介するスピーチを行っています。



平成25年8月(ニューヨーク) トモダチでありとう
～東日本大震災津波岩手県復興報告～

■ 「いわての復興を自治の進化に」シンポジウムの開催

全国からの応援に感謝をこめて

岩手の復興のため、全国から来て頂いている多くの応援職員の皆様への感謝をこめて、「いわての復興を自治の進化に」シンポジウムを開催しました。職員からの発表という形で、復興の進捗状況や課題を全国に発信し、岩手と全国の自治体、応援団体の職員等との絆を深めながら、今後の継続的な支援への理解を深めていただく機会としています。



第1回シンポジウム(平成26年2月)

■ 岩手県知事 達増拓也 presents!
岩手県公式インターネット番組
『いわて希望チャンネル』

震災の記憶の風化が進む中で、より多くの人々に本県への関心を持っていただきたいという想いを伝えるため、達増知事がメインパーソナリティを務め、インターネット番組「いわて希望チャンネル」を毎月1回、「ニコニコ生放送」で配信しています。



いわて希望チャンネルURL▶ <http://ch.nicovideo.jp/iwate-kibou>

いわて希望チャンネル Facebook▶
<http://www.facebook.com/prefiwatewebtv>

過去放送分はこちら▶
<http://www.pref.iwate.jp/kouchoukouhou/023509.html>

■ 岩手への想いに応えるために
スマホ向け岩手情報アプリ
『e!いわて』いわてつながり情報局

岩手県に関心を寄せる方々が、被災地の情報に手軽にアクセスできるよう、産学官連携でスマートフォンアプリ「いわてつながり情報局(e!いわて)」を製作し、平成26年2月7日から岩手の復興に関連する情報をお届けしています。

(システム開発協力:株式会社アイシーエス)



問合せ先▶ 復興局復興推進課 ☎019-629-6922



行方不明者の捜索(大船渡市)

自衛隊による活動

138日間にわたり多方面での支援活動を展開

東日本大震災津波では、10万7千人という空前の規模で自衛隊が派遣されました。陸・海・空の3自衛隊が、訓練以外で統合任務隊として運用されたのは初めてのことです。



音楽隊によるミニコンサート(田野畑村)

自衛隊は、被災者の救出や行方不明者の捜索のほか、がれきの撤去、支援物資の運送、給水、給食のほか、女性自衛官による「お話し隊」が避難所を巡回して傾聴活動を行うなど、多方面にわたる活動を展開しました。

消防による活動

全国からの援助隊と地元消防団により活動を展開

本県からの緊急消防救助隊派遣要請により、全国からの緊急消防救助隊の派遣数が延べ2,279隊、7,633人にのぼり、名古屋市消防局が県内消防活動全般の指揮をとるなど、多くの都道府県隊の支援による活動が行われました。



緊急消防援助隊(大船渡市)



県外から被災地に到着した消防車群(陸前高田市)

被災市町村への職員派遣

全国の自治体から1,000人を超える派遣

今回の震災により、沿岸の5市町村で108人の職員の方が犠牲となりました。このような中、発災直後の3月末に、名古屋市から陸前高田市に対して職員派遣の申出があり、その後も県内及び全国の自治体から同様の申出を受け、平成23年度は171人を、平成26年3月までに1,000人を超える派遣をいただき、現在も全国の自治体に協力を依頼しています。



大槌中学校生徒会による派遣職員に感謝する会(平成25年12月)

久慈市	野田村	田野畑村	岩泉町	宮古市
1	23	25	12	101
山田町	大槌町	釜石市	大船渡市	陸前高田市
58	151	134	85	113
合計				703

(平成26年11月1日現在)

	必要人数	派遣決定数	一般事務					その他
			うち用地関係	土木	建築	保健師		
平成23年度(H24.3.31現在)	—	171	97	—	42	10	12	10
平成24年度(H25.3.31現在)	366	321	145	21	127	21	16	12
平成25年度(H26.3.31現在)	628	596	294	68	204	38	21	39

※その他は、機械技師、電気技師、看護師、社会福祉士、保育士、理学療法士、司法書士など

全国から215人の警察官が本県へ特別出向

被災地の安全と安心の確立のために

沿岸市町村の治安維持機能が極めて憂慮すべき状況になる中、1都15県から延べ215人の警察官が本県に特別出向し、被災地の良好な治安の確保のため、応急仮設住宅団地の巡回やパトロール活動をはじめ、交通安全活動、犯罪の取締りなどに従事しています。

また、大船渡・釜石・宮古署では、沿岸地域の児童・幼児を対象に、ヒーロー寸劇等による防犯啓発活動も行っています。



特別出向警察官着任式



警察官によるヒーロー寸劇

出向元	出向人数(延べ)
青森県	15
警視庁	31
埼玉県	8
神奈川県	10
山梨県	11
長野県	23
三重県	15
岡山県	17
広島県	25
徳島県	5
香川県	7
高知県	5
熊本県	14
大分県	9
宮崎県	9
沖縄県	11
合計	215

医療チームの派遣

全国各地の医師による被災地医療支援

発災直後には、国の要請を受けた全国のDMATが来援し、29都道府県の128チームがトリアージや応急処置、病院支援の活動を展開しました。

また、発災後間もなく岩手医科大学に設置された「災害時地域医療支援室」が窓口となって受入調整を行い、平成23年12月末までの間に88チーム、延べ4,463人の県外医師による医療支援が行われました。

さらに、岩手県医師会(JMAT岩手)による、内陸部から沿岸被災地への診療応援活動により、2つの県立病院がその支援を受けました。



参加したD-MATによる打合せ(宮古市 平成23年3月)

海外からの支援

つながりに感謝

被災地では、米軍と自衛隊による「トモダチ作戦」をはじめ、米国・英国・中国などの救援隊も救援活動にあたりました。

また、発災直後から、多くの国々から支援物資が届けられたほか、世界各国からの義援金や寄附金が、三陸鉄道の復旧や被災地における保育所・学童施設・ホールなどの施設整備に役立てられました。



海外からの救援隊(大船渡市 平成23年3月)

これまでいただいた支援の状況

東日本大震災津波発災以降、国内外の皆様から多大な御支援や励ましをいただき、心より厚く御礼を申し上げます。

活動ボランティア受入人数
延べ510,137人(平成26年10月末現在)
今後とも、被災者と被災地に寄り添うご支援を引き続きお願いいたします。

問合せ先▶ 岩手県社会福祉協議会ボランティア・市民活動センター ☎019-637-9711

寄附金 194億円
(平成26年10月末現在)
被災者の生活支援や住宅再建支援、雇用確保や産業の復興に活用させていただいております。

問合せ先▶ 保健福祉部保健福祉企画室 ☎019-629-5408

義援金 527億円
(平成26年10月末現在)
被災された方々の生活再建のために活用させていただいております。

問合せ先▶ 復興局生活再建課 ☎019-629-6917

いわての学び希望基金 70億円
(平成26年10月末現在)
教育の充実のための奨学金、教科書や制服の購入費、修学旅行や部活動への参加経費など、被災地の子どもたちの「暮らし」と「学び」のために活用させていただいております。

問合せ先▶ 復興局復興推進課 ☎019-629-6922

ふるさといわて応援寄付(ふるさと納税) 8億円
(平成26年10月末現在)
岩手の美しい自然環境を保護し、次世代に引き継いでいく事業や、これからの岩手を担う人材の育成や子育て支援、災害復旧対策のための資金として活用させていただいております。

問合せ先▶ 総務部税務課 ☎019-629-5144

復興が着実に進むよう、全力で取り組んで参りますので、引き続き、御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

三陸創造プロジェクト



三陸ジオパーク 北山崎(田野畑村)

「三陸創造プロジェクト」は、長期的な視点に立ったうえで、三陸地域が持つ特性と環境変化を最大限に生かし、そこで展開される生き方、暮らしやなりわいが生み出す「三陸ブランド」を確立させながら、より多くの人々をひきつけ、さらに交流・連携を深めることで多様な人材が育まれる、将来にわたって持続可能な新しい三陸地域の創造を目指すものです。

東日本大震災津波伝承まちづくりプロジェクト

いつまでも忘れない・災害に強いひとづくり、災害に強いまちづくり

取組例≫ 津波復興祈念公園の整備



震災の経験や教訓を継承しつつ、犠牲者を追悼・鎮魂するとともに、安全なまちづくりと一体となった地域の賑わいの再生に資する「高田松原津波復興祈念公園」の整備に向けた取組を進めています。

さんりくエコタウン形成プロジェクト

環境と共生したエコタウンを実現します

取組例≫ 再生可能エネルギーの導入促進

再生可能エネルギーに関するセミナー・勉強会の開催や、情報発信、導入支援マップの公開などにより、地域に根ざした再生可能エネルギーの導入を促進し、災害時にも地域でエネルギーを賄うことができる自立・分散型エネルギー供給体制の基盤づくりを進めています。



さんりく産業振興プロジェクト

三陸らしい個性豊かで競争力のある産業を構築します

取組例≫ 新素材・加工産業の集積促進

「いわて発」高付加価値コバルト合金をはじめとする特殊合金等の新素材の開発や製品化、販路開拓を支援し、金属素材の製造や加工を行う産業の集積を図ることによって、新たな雇用の創出を促進します。



新たな交流による地域づくりプロジェクト

定住・交流人口の拡大による活力みなぎる地域をつくります

取組例≫ 世界ジオパーク認定を目指した「三陸ジオパーク」の推進



平成25年9月に認定を受けた「三陸ジオパーク」は、自然と文化のつながり、震災の被害の大きさを物語る遺構など、壮大なスケールのジオを体感できます。こうした情報を国内外に発信しながら、更なる交流人口の拡大のため、世界ジオパーク認定を目指した取組を推進します。

国際研究交流拠点形成プロジェクト

国際的研究拠点・国際学術研究都市を構築します

取組例≫ 国際リニアコライダー(ILC)の実現に向けた取組

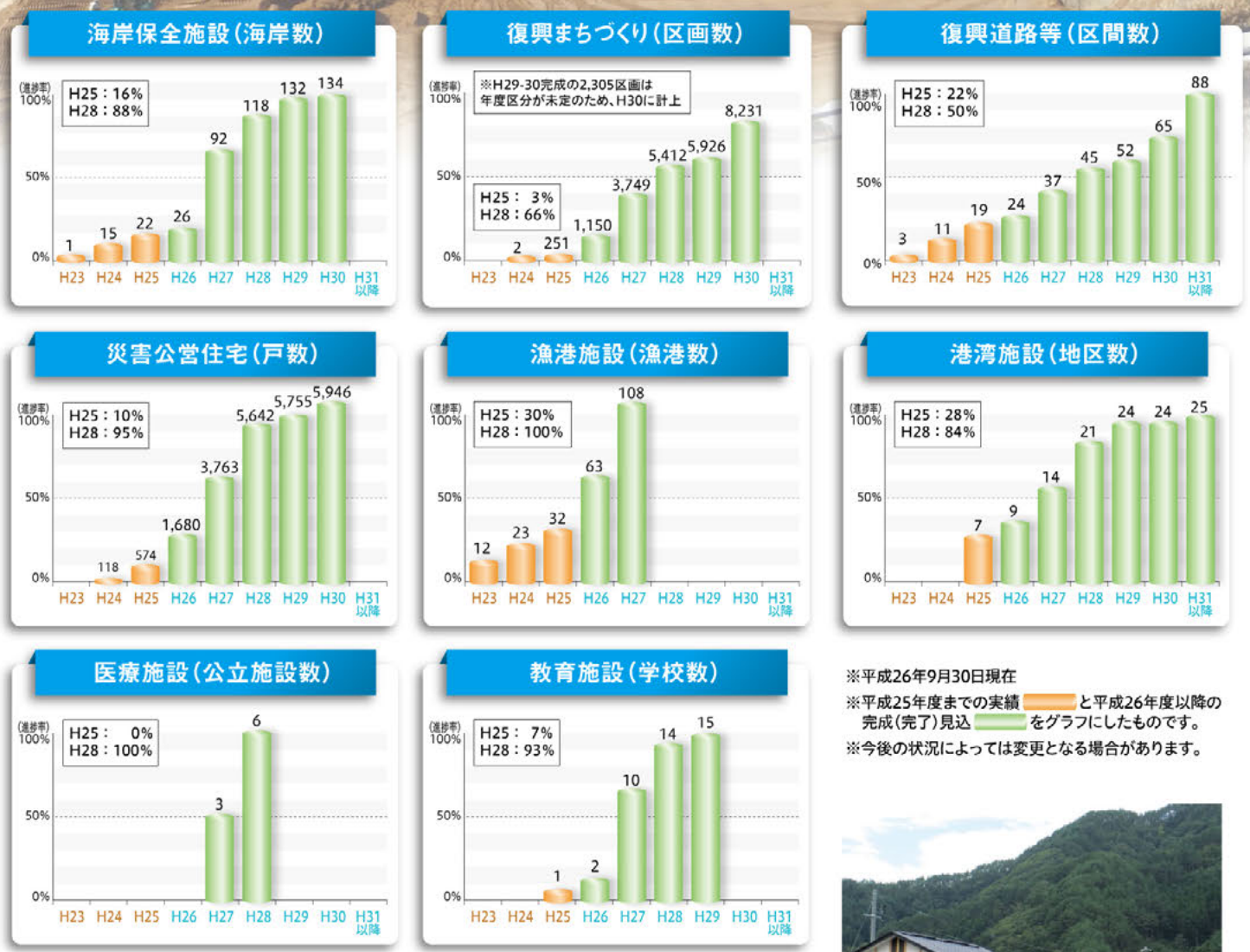
ILCは、全長31～50kmの地下トンネルに建設予定の最先端の素粒子研究施設です。平成25年8月23日、専門組織の「ILC立地評価会議」は、岩手県南から宮城県北にかけての北上山地を国内建設候補地に決定。実現すると、国際的な学術研究都市が形成され、研究の促進や産業の振興などが期待されます。



主な復旧・復興事業の今後の見通し



防災集団移転住宅団地整備(宮古市 平成26年11月)



社会資本の復旧・復興ロードマップ

県では、復興まちづくりや災害公営住宅などの8分野について、復興事業の動きや今後の見通しを『社会資本の復旧・復興ロードマップ』として取りまとめ、県のホームページなどでお知らせしています。

社会資本の復旧・復興ロードマップ≫ <http://www.pref.iwate.jp/anzen/machizukuri/18200/index.html>

※平成26年9月30日現在
※平成25年度までの実績(オレンジ)と平成26年度以降の完成(完了)見込(緑)をグラフにしたものです。
※今後の状況によっては変更となる場合があります。



建設中の災害公営住宅(大槌町 平成26年9月)

“いわて復興だより”ダイジェスト



いわて復興だより

「いわて復興だより」は、多くのご支援に対する感謝の気持ちを込め、岩手県の復旧・復興状況について発信することを目的に、平成23年7月1日の創刊以来、月2回(1日・15日)発行し、「いわての今」を伝えています。

また、平成25年5月より公開している「いわて復興だよりWeb」では、動画と写真たっぷりに復興状況を生き生きと伝えています。

問合せ先
▶▶ 復興局復興推進課 ☎019-629-6925

いわて復興だより

いわて復興だよりWeb

H23.10.15 第7号

宮古水産高 北大の支援で乗船実習へ



船を失い乗船実習ができなくなった県立宮古水産高に船を派遣。練習船「おしよる丸」を無償貸与した北海道大学水産学部へ感謝の意。

H23.11.1 第8号

岸壁に乗り上げた貨物船を撤去



釜石港の岸壁に乗り上げた100mもの大型貨物船を撤去。7か月ぶりに海に下ろされた貨物船「アジアシンフォニー」は、修復のために広島へ。

H23.12.15 第11号

復興へ向け金澤翔子氏の作品をロゴに



「三陸復興」を新たなシンボルに。復興への機運醸成のため、女流書家金澤翔子氏の作品をイベントや広報媒体などで活用。

H23.8.11 第3号

自衛隊の皆さん、ありがとうございました



138日間にわたって支援活動を続けた自衛隊。その最後のあいさつも力強い支援の言葉で締めくくられた。

H23.9.1 第4号

なでしこジャパン・岩清水選手も応援



FIFA女子W杯ドイツ2011で優勝した滝沢村(現滝沢市)出身の岩清水梓選手。県庁県民室に岩清水選手からの応援メッセージやユニフォームが展示。

H26.11.1 第74号

海の安全と復興を祈願

大漁旗をたなびかせた漁船が勇壮に釜石湾内を周回する「曳き船まつり」が行われ、港は大勢の人が集まり活気にあふれました。

H24.1.1 第12号

ショッピングセンター 営業を再開



津波被害で閉鎖していた大槌町のショッピングセンターが、平成23年暮れに営業を再開。地元店を含む約45店舗が入居、約300名の地元雇用が生まれた。

H24.2.1 第14号

“奇跡の一本松”の苗木が名古屋へ



3年後をめどに名古屋市動物園に移して育てることで河村名古屋市長と戸羽陸前高田市長が合意。苗木のほか市職員の派遣継続も決定。

H24.3.15 第16号

震災後一年を迎え県と陸前高田市が合同追悼式



震災から1年目の3月11日に県と合同で陸前高田市が追悼式を開催。遺族ら3,000人以上が参列。

H24.6.1 第21号

“東北六魂祭 2012盛岡”



魂を奮い立たせ震災を乗り越えようと、前年の仙台に続き盛岡で開催。パレードでは、東北6大祭に加え、地元盛岡市から盛岡秋まつりの山車も参加。

H24.9.15 第27号

“希望の気球プロジェクト”



陸前高田市の小友小学校で、復興の進む街を熱気球から子どもたちが見るプロジェクトを実施。子ども達からは「空を飛んでみたいだった」などの感想が。

H25.3.1 第36号

三陸鉄道 新型車両の安全祈願祭



大船渡市の南リアス線運行部車両基地で行われた新車両の安全祈願祭。クウェート国からの支援資金で製造された車両は、南リアス線盛岡～吉浜駅を運行。

H25.7.15 第44号

田野畑村でサケふ化場の竣工式



田野畑村で行われた新たなサケふ化場の竣工式。施設は隣接する普代村と共同利用し、毎年約1,200万匹の稚魚を育成し、来春に放流。

H25.9.1 第47号

“109KAMAISHI”が期間限定でオープン



若い女性を中心に人気の東京・渋谷のファッションビル「SHIBUYA109」が釜石に出店。期間限定の店名は「SHIBUYA109 KAMAISHI」。釜石の女子中学生の手紙がきっかけ。

H26.1.1 第55号

大槌中学校生徒会が“派遣職員に感謝する会”開催



全国の自治体や企業から来町した皆さんへ感謝の気持ちを伝えようと同校生徒会が発案。生徒会長の新田亮介君は「皆さんの笑顔が見ることができたので嬉しい」と語る。

H26.3.1 第59号

JR釜石線「SL銀河」4月12日から運行開始



JR東日本盛岡支社は、観光面からの復興支援と地域活性化のため、釜石線(花巻駅～釜石駅間)でのC58型蒸気機関車「SL銀河」の運行開始を発表。

H26.5.1 第62号

大船渡市新魚市場が完成



新魚市場は4階建。衛生・鮮度管理の体制とシャベット海水を作る製氷施設が特長。また家族で楽しめる展示スペースや見学デッキ、展望デッキも設けられ、観光の新拠点にも。

H26.8.1 第68号

吉里吉里海岸海水浴場が4年ぶりに復活



本格的な海水浴シーズンを迎え、本県の海水浴場が、新たに3ヶ所復活。大槌町の吉里吉里海岸は、釜石・大槌地域で震災後初の海開きとなった。

県外へ避難している皆さまにも「いわてグラフ」や様々な支援情報とともに送付しています。岩手県公式ホームページへの掲載のほか、東京、名古屋、大阪、福岡の各県外事務所、アンテナショップ「いわて銀河プラザ」でも配布しています。

これまでの復興の歩み

2011.3~2014.11



岩手日報2011年3月13日付



▶ 2011

- 3月 11日 東日本大震災津波発生
岩手県災害対策本部設置
- 13日 県内の避難者数が最多の5万4429人に(在宅含む)
- 15日 航路等の啓開により、県内港湾で初めて釜石港の荷役制確保
- 16日 釜石港に救援物資を積んだ第1船入港
三陸鉄道北リアス線 陸中野田~久慈間の運行再開(以後、4月1日までに他2区間において運行再開)
- 19日 応急仮設住宅の建設を開始(陸前高田市・釜石市)
- 4月 9日 県内初となる応急仮設住宅への入居開始(陸前高田市)
- 11日 「がんばろう!岩手宣言」発表
「岩手県東日本大震災津波復興委員会」設置
- 29日 東北新幹線が全線復旧
- 5月 6日 天皇皇后両陛下が被災地をご訪問(釜石市・宮古市)
- 25日 文仁親王同妃両殿下が被災地をご訪問(~26日、大槌町・山田町)
- 6月 2日 宮古市に「子どものこころのケアセンター」を設置
- 6日 正仁親王妃殿下が避難所をご訪問(雫石町)
- 20日 「東日本大震災復興基本法」成立
- 29日 平泉の文化遺産が世界遺産に登録
- 7月 3日 「東北復興平泉宣言」発表
- 13日 県内で初めて宮古港のコンテナ貨物取扱い再開
- 15日 三陸鉄道が2014年4月までに全線運行再開の方針を決定
- 26日 自衛隊が本県での支援活動任務を終了、県庁前で感謝式開催
- 8月 5日 皇太子同妃両殿下が被災地をご訪問(大船渡市)
- 11日 県内全ての応急仮設住宅が完成
県が「岩手県東日本大震災津波復興計画復興基本計画」を策定
- 31日 県内の全ての避難所を閉鎖
- 9月 16日 憲仁親王妃殿下が被災地をご訪問(住田町・陸前高田市)
- 28日 東京都が岩手県内のがれき受け入れを発表、初の広域処理へ
- 10月 3日 岩手県産業復興相談センター開所
- 11月20日 復興道路が着工(三陸沿岸道路(尾肝要道路))(田野畑村)
- 12月 7日 「東日本大震災復興特別区域法」成立
- 26日 県が復興特区プロジェクトチームを設置

▶ 2012

- 2月 15日 岩手医科大学内に「岩手県こころのケアセンター」を開設
- 10日 国が復興庁を設置し、盛岡市に岩手復興局、宮古市と釜石市に支所を設置
- 26日 釜石港湾口防波堤の復旧工事に着工(釜石市)
- 3月 8日 県内初の防潮堤復旧工事に着工(宮古市金浜海岸)
- 11日 東日本大震災津波から1年、各地で追悼式などが挙行される
- 28日 沿岸4箇所に「地域こころのケアセンター」を設置
- 4月 1日 「いわてDC(デスティネーションキャンペーン)」を開催(~6月30日)
- 5月 26日 東北六魂祭が盛岡で開催され、2日間で24万人を超える人出を記録
- 6月 11日 県が「復旧・復興ロードマップ(総括工程表)」を発表
- 14日 県内で初めて災害公営住宅の建設に着手(釜石市平田地区)
- 9月 12日 陸前高田市「奇跡の一本松」を保存のため伐採
- 10月10日 県内で初めて、高台移転のための用地造成工事に着工(田野畑村)

- 11月25日 大震災津波後、県内で初めてとなる復興道路の供用開始
(東北横断自動車道釜石秋田線(宮守~東和))(遠野市、花巻市)
- 12月10日 県内で初めて災害公営住宅への入居開始(大船渡市盛中央団地)
- 13日 大槌町の蓬莱島の灯台が再点灯
- 19日 文仁親王同妃両殿下が被災地をご訪問(~20日、陸前高田市・大船渡市・遠野市)

▶ 2013

- 1月 26日 大阪府において「いわて三陸復興フォーラム」を開催
- 2月 1日 県内全ての応急仮設住宅団地500メートル以内にバス停の設置を完了
- 6日 東京都において「東北連携復興フォーラム つなぐ力を」を開催
- 9日 宮古市において「いわて三陸復興フォーラム」を開催
- 3月 2日 JR大船渡線気仙沼~盛間でBRTによる運行開始
- 10日 復興道路「宮古盛岡横断道路(築川道路)」供用開始(盛岡市)
- 11日 東日本大震災津波から2年、各地で追悼式などが挙行される
- 25日 県内で初めてとなる移転先宅地の造成工事が完了(宮古市追切・浦の沢地区)
- 4月 1日 久慈市を舞台としたNHK朝の連続テレビ小説「あまちゃん」放映開始
- 3日 三陸鉄道南リアス線盛~吉浜間の運行再開
- 5月 8日 矢巾町に「いわてこどもケアセンター」を設置
- 24日 「三陸復興国立公園」創設
- 7月 3日 「奇跡の一本松」保存事業完成式開催
- 4日 天皇皇后両陛下が本県被災地をご訪問(~5日、遠野市・住田町・大船渡市・陸前高田市・一関市)
- 25日 2016年国体の岩手開催が正式決定
- 8月 5日 正仁親王同妃両殿下が被災地をご訪問(~6日、岩泉町・田野畑村・野田村・久慈市)
- 23日 「ILC立地評価会議」が国際リニアコライダー(ILC)の国内建設候補地を北上山地に決定
- 27日 米国ニューヨーク市で「トモダチでありがとう」震災復興報告会を開催
- 9月 24日 県沿岸部を中心とした「三陸ジオパーク」が日本ジオパークに認定
- 10月13日 復興道路「三陸沿岸道路(普代道路)」供用開始(普代村)
- 11月 1日 皇太子同妃両殿下が被災地をご訪問(~2日、釜石市)
- 2日 大船渡市において「いわて三陸復興フォーラム」を開催
- 12月19日 愛知県において「いわて三陸復興フォーラム in 名古屋」を開催

▶ 2014

- 2月 6日 シンポジウム「いわての復興を自治の進化に」を開催(~7日)
- 13日 東京都において「東北4県・東日本大震災復興フォーラム」を開催
- 3月 2日 復興道路「三陸沿岸道路(尾肝要道路)」供用開始(田野畑村)
- 11日 東日本大震災津波から3年、各地で追悼式などが挙行される
- 23日 復興道路「三陸沿岸道路(高田道路)」全線供用開始(陸前高田市)
陸前高田市で土砂搬出用のベルトコンベア「希望のかけ橋」稼働開始
- 31日 本県の災害廃棄物処理が終了
県が「岩手県東日本大震災津波復興実施計画(第2期)」を策定
- 4月 5日 三陸鉄道南リアス線 吉浜~釜石間の運行再開により、全線において運行再開
山田町立船越小学校、被災校舎から移転・新築した新校舎での授業開始、被災3県で初
- 6日 三陸鉄道北リアス線 小本~田野畑間の運行再開により、全線において運行再開
- 12日 釜石線花巻~釜石駅間でSL銀河が営業運転を開始
- 23日 大船渡市新魚市場の完成式典開催
用地取得迅速化のための「東日本大震災復興特別区域法の一部を改正する法律」成立
- 5月 29日 リアスハーバー宮古の復旧工事完了・供用再開
- 6月 23日 県栽培漁業協会が震災後初のアワビ種苗を出荷
- 26日 国・県・陸前高田市による「高田松原津波復興祈念公園基本構想」策定
- 8月 24日 復興道路「宮古盛岡横断道路(平津戸松草道路・区界道路)」の着工により
県内の復興道路が全て着工
- 30日 仏国パリ市で「東北復興祭「環<WA>」in PARIS」開催(~31日)
- 11月 7日 // 「つながりに感謝」震災復興報告会を開催



岩手日報2013年3月3日付



第71回国民体育大会岩手県準備委員会 第7回いわて国体・希望いわて大会実行委員会



人口/世帯数

1,284,384人 / 518,191世帯 (平成26年10月1日現在)

位置/面積

岩手県は本州の北東部に位置し、東西約122km、南北約189kmと南北に長い楕円の形をしています。その広さは北海道に次ぐ面積(15,278.89km²)であり、日本の面積の4%を占めています。

県旗・県章

県旗は、県章をなんど色(グリンニッシュグレイ)の地色の旗面中央に白ぬきしたもので、昭和40年3月6日に制定しました。

県の鳥

キジ 県内全域に生息しています。雄は光った帯緑黒色の美しい羽と長い尾羽を持ち、雌は地味で体が淡黄かっ色、体一面に黒点があります。気品にあふれ、勇壮で愛情こまやかな習性は県民性を表しています。

県の木

ナンブアカマツ 県内いたるところに生息している本県産の代表的樹種です。特に古生層の丘陵地帯に多く、早く成長します。油脂分が多いため、磨けば磨くほど優雅な光沢を出し、純和風高級材として質、量ともに日本一を誇っています。

県の花

キリ 本県産のキリは、材の光沢が強く淡紫色をおびて美しいので「南部の紫桐」として知られています。

県の魚

南部さけ 体長約90cm、体は紡錘形をしていて、秋、故郷の川をさかのぼり、上流の砂底に産卵します。岩手県は、秋サケでは、本州一の漁獲量を誇り、昔から多くの県民に親しまれてきた魚です。



県旗・県章



キジ



ナンブアカマツ



キリ



南部さけ



岩手県へのアクセス

(北陸新幹線 長野～金沢間は平成27年3月14日開業予定)

新幹線 盛岡駅まで

東京	約2時間10分
名古屋	約4時間10分
大阪	約5時間10分
福岡	約7時間45分

航空 いわて花巻空港まで

札幌	約55分
名古屋	約70分
大阪	約80分
福岡	約120分

東北自動車道 盛岡ICまで

東京	約5時間30分(東北道)
名古屋	約10時間30分(東名・首都高速・東北道経由)
大阪	約13時間(名神・北陸・磐越・東北道経由)

広げよう 感動。伝えよう 感謝。



第71回国民体育大会

2016 希望郷 **いわて国体**

冬季大会

スケート・アイスホッケー競技会	2016年1月27日(水)～31日(日)
スキー競技会	2016年2月20日(土)～23日(火)

本大会

2016年10月1日(土)～11日(火)	
水泳競技	2016年9月4日(日)～11日(日)

第16回全国障害者スポーツ大会

2016 希望郷 **いわて大会**

2016年10月22日(土)～24日(月)

写真提供 岩手県建設業協会/岩手日報社/大槌町/大船渡市/釜石市/久慈市/JR東日本盛岡支社/田野畑村/東北地方整備局/野田村/山田町/陸前高田市 (五十音順・敬称略)

いわて
復興の歩み

いわて 復興の歩み

2011-2014 東日本大震災津波からの復興の記録

陸前高田市

「奇跡の一本松」と「希望のかけ橋」

(平成26年10月撮影)

◎奇跡の一本松

高田松原の約7万本の松の中で、奇跡的に津波に耐えて生き延びた1本の松。復興のシンボルとして平成25年6月に復元が完了。

◎希望のかけ橋

宅地造成工事で発生する土砂を搬出するための全長3kmに及ぶベルトコンベア専用の懸け橋。平成26年3月に稼働を開始し、ダンプトラックによる運搬で約10年かかる作業を、1年2ヶ月まで短縮。

平成26年12月

 岩手県

目次 CONTENTS

はじめに	01
1 概況・被害状況と復興計画	02
2 基盤復興期間における復興の状況	04
3 これまでの主な取組	
①防災のまちづくり	06
②交通ネットワーク	08
③教育・文化	09
④生活・雇用	10
⑤保健・医療・福祉	12
⑥地域コミュニティ	14
⑦水産業・農林業	15
⑧商工業・観光	16
⑨情報発信・絆づくり	17
⑩全国・海外からの応援	18
4 三陸創造プロジェクト	20
5 主な復旧・復興事業の今後の見通し	21
6 “いわて復興だより”ダイジェスト	22
7 これまでの復興の歩み	24

岩手県の紹介

沿岸各地の動画が見られます

本誌内に動画再生のマークがあります。
ご覧になっているメディアに合った方法でご利用ください。



●パソコンの場合

→PDF・電子ブックに掲載しているマークをクリックしてください。

●冊子またはダウンロードしたPDFをプリントアウトした場合

→スマートフォンやタブレットのアプリ「junaio」を使ってマークをスキャンしてください。

無料ARアプリ「junaio」の使用方法



iOSはAppStore、AndroidはGooglePlayから「junaio」をインストールしてください。アプリを起動し画面右上の「スキャン」をタップし、ページ内のマークにかざすと動画が再生されます。

はじめに

東日本大震災津波から3年9か月になります。あの日、慣れ親しんだ故郷の風景が瞬間に一変し、岩手県では、4,672名もの尊い命が奪われました。犠牲になられた方々に謹んでお悔やみ申し上げます。また、今もなお、1,130名の方々が行方不明となっており、御家族の皆様にご心からお見舞い申し上げます。

振り返りますと、応急復旧に追われる中で復興計画を策定した平成23年、基盤復興の取組を本格化させた平成24年、復興の取組を加速させた平成25年と、県民の皆様が一丸となって取組を進め、本格復興の段階を迎えるに至りました。

その間、犠牲になられた方々の故郷への思いをしっかりと引き継ぐこと、そして、被災された方々の「暮らし」、「学び」、「仕事」を確保し、一人ひとりの幸福追求権を保障していくことを原則として、県政史上かつてない規模の事業に取り組んで参りました。

「いわて復興の歩み」は、主に基盤復興期間（平成23年度～平成25年度）における本県の復興の状況を取りまとめたものです。

これまで、復興道路や災害公営住宅の整備、地域資源を活用した6次産業化の取組など、復興に向けた歩みは着実に進んでおり、県民全体の「地元の底力」、そして、日本全国及び海外から復興を支えてくださる多くの方々との「つながりの力」による復興

の推進に、手ごたえと今後の大きな可能性を感じています。

この小冊子により、本県の復興の状況について御理解いただくとともに、日本全国及び世界中の皆様が、今後、様々な自然災害に立ち向かい、新しい復興を進める上で広く御活用いただきますよう、お願い申し上げます。

私たちは、今、被災地に復興のつち音を高く響かせ、「いのちを守り 海と大地と共に生きる ふるさと岩手・三陸の創造」を目指しています。

そのため、市町村、県、国が一体となり、被災地と被災された皆様へ寄り添い、県内外の多様な主体と連携しながら、復興が着実に進むよう、県民の皆様とともに、全力で取り組んで参りますので、引き続き、御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。



平成26年12月11日
岩手県知事

達増拓也



知事メッセージ

概況・被害状況と復興計画

東日本大震災津波の概況 (岩手県災害対策本部調べ)

- ▶名称(発生日時) 東日本大震災津波(平成23年3月11日(金)14時46分頃)
※地震による震災の名称について、政府は「東日本大震災」としていますが、岩手県では「東日本大震災津波」と表記することとしています。
- ▶震源地 三陸沖・牡鹿半島の東南東約130km付近(北緯38°06.2'／東経142°51.6')
- ▶震源の深さ・規模 24km・マグニチュード9.0(モーメントマグニチュード)
- ▶本県の最大震度 震度6弱:大船渡市、釜石市、滝沢村、矢巾町、花巻市、一関市、奥州市、藤沢町
- ▶津波の最大波 [宮古]11日15時26分 8.5m以上 [釜石]11日15時21分 4.2m以上 [大船渡]11日15時18分 8.0m以上 [久慈港]8.6m(推計値)

- 洋野町** 痕跡高…洋野・久慈北海岸12.0m
家屋倒壊数 …… 26棟
- 久慈市** 痕跡高…久慈湾13.7m
死者数… 2人/行方不明者数…2人
家屋倒壊数 …… 278棟
- 岩泉町** 痕跡高…岩泉海岸20.2m
死者数… 7人
家屋倒壊数 …… 200棟
- 大槌町** 痕跡高…大槌湾15.1m
死者数… 803人/行方不明者数…427人
家屋倒壊数 …… 3,717棟
- 釜石市** 痕跡高…両石湾22.6m
死者数… 888人/行方不明者数…152人
家屋倒壊数 …… 3,655棟



岩手県における被害状況

痕跡高・死者数・行方不明者数・家屋倒壊数
(平成26年11月30日現在)

- 野田村** 痕跡高…野田湾21.4m
死者数… 38人
家屋倒壊数 …… 479棟
- 普代村** 痕跡高…普代海岸18.4m
行方不明者数 …… 1人
- 田野畑村** 痕跡高…田野畑海岸23.0m
死者数… 14人/行方不明者数…15人
家屋倒壊数 …… 270棟
- 宮古市** 痕跡高…重茂海岸21.8m
死者数… 420人/行方不明者数…94人
家屋倒壊数 …… 4,098棟
- 山田町** 痕跡高…船越湾19.0m
死者数… 604人/行方不明者数…148人
家屋倒壊数 …… 3,167棟
- 大船渡市** 痕跡高…綾里湾23.8m
死者数… 340人/行方不明者数…79人
家屋倒壊数 …… 3,937棟
- 陸前高田市** 痕跡高…広田湾18.3m
死者数… 1,556人/行方不明者数…207人
家屋倒壊数 …… 4,045棟

- 内陸部**
行方不明者数 …… 5人
家屋倒壊数 …… 1,844棟
- 本県全体**
死者数 …… 4,672人
行方不明者数 …… 1,130人
家屋倒壊数 …… 25,716棟

※死者数は直接死のみ(岩手県警調べ)。
※家屋倒壊数は、全壊及び半壊数。
※痕跡高は、堤防付近での測定値(「岩手県沿岸における海岸堤防高さの設定について」による)。



○産業被害額 (平成23年11月25日現在)

●農林業	984億円
●水産業、漁港	5,649億円
●商工業	1,335億円
●観光業(宿泊施設)	326億円
●合計	8,294億円

○公共土木施設被害額 (平成23年7月25日現在)

●河川、海岸、道路等施設	1,723億円
●公園施設	405億円
●港湾関係施設	445億円
●合計	2,573億円

○津波浸水範囲の土地利用構成率

田	その他の農用地	森林	建物用地
17%	4%	9%	34%

(平成23年4月18日国土地理院「津波浸水範囲の土地利用別面積について」による)

○推定資本ストック被害額・被害率 (単位:10億円)

	推定資本ストック A	推定資本ストック被害額					被害率 B/A	GDP値 C	被害額がGDPに占める割合 B/C	
		生活・社会インフラ	住宅	製造業	その他	合計 B				
岩手県	内陸部	26,369	457	22	64	211	754	2.9%	4,255	1.0年分
	沿岸部	7,449	1,943	607	191	781	3,522	47.3%		
	合計	33,818	2,400	629	255	992	4,276	12.6%		

※推定資本ストック被害額及び被害率については、株式会社日本政策投資銀行推計(平成23年4月28日)
※GDP値は、「平成21年度の県経済計算について」(平成24年2月29日 内閣府経済社会総合研究所国民経済計算部)による

○応急仮設住宅等への入居状況 (平成26年10月31日現在)

	応急仮設住宅等					合計
	応急仮設住宅	みなし仮設				
		民間賃貸住宅	雇用促進住宅	公営住宅等	みなし仮設計	
戸数(戸)	10,637	1,836	529	127	2,492	13,129
人数(名)	23,201	4,535	1,606	348	6,489	29,690

応急仮設住宅団地(釜石市)

岩手県東日本大震災津波復興計画

岩手県では、今回の震災を乗り越えて力強く復興するための地域の未来の設計図として、平成23年8月11日に「復興計画」を策定しました。
この計画に基づき、再び津波によって命が失われることのない、より安全で暮らしやすい地域を創り上げていきます。

目指す姿 「いのちを守り 海と大地と共に生きる ふるさと岩手・三陸の創造」
計画期間 平成23年度から平成30年度までの8年間



問合せ先▶復興局復興推進課 ☎019-629-6945

基盤復興期間における復興の状況

(平成23年度～平成25年度)



復興レポート
 陸前高田市

陸前高田市(平成26年5月)

※進捗状況は特記のない場合、平成26年3月31日現在のものです。

暮らしの再建

応急仮設住宅等入居者数(みなし仮設を含む)
 ピーク時(平成23年10月)43,738人



災害公営住宅整備戸数
 整備予定戸数5,969戸



被災者生活再建支援制度加算支援金申請件数
 基礎支援金申請件数 23,155件
 加算支援金申請件数 7,906件



医療施設数(沿岸地区)
 217施設(震災前(H23.3)比90%)



※自院または仮施設において診療を行っている医療機関(病院・内科診療所・歯科診療所)

公立学校施設の復旧状況(沿岸地区)
 被災学校数 86校



公立文化施設・体育館の復旧状況
 被災施設数 70施設



安全の確保

災害廃棄物の処理
 災害廃棄物推計量525.3万トン



災害廃棄物の選別作業(釜石市 平成25年10月)

久喜漁港海岸災害復旧工事(久慈市 平成25年9月)

海岸保全施設の復旧・整備箇所数
 計画箇所数 134箇所



面整備事業箇所数
 事業箇所数 158箇所



復興道路供用延長キロ数
 計画延長 393km



宅地供給区画数
 予定宅地区画数 8,291区画



三陸沿岸道路(普代～久慈)敷入れ(平成25年6月)



漁業集落住宅団地整備工事(宮古市 平成26年1月)

なりわいの再生

産地魚市場水揚量
 震災前3年間(H20～22)の平均 169,627トン



養殖生産量
 震災前3年間(H20～22)の平均 47,692トン



農地の復旧面積
 復旧対象面積 450ha



共同利用漁船等復旧支援対策事業により整備した定置網漁船



農用地災害復旧関連区画整理事業により整備した農地での稲刈(陸前高田市 平成26年9月)

被災事業所における事業再開の有無
 対象事業所数 1,778事業所



被災事業所における業績(売上)状況
 対象事業所数 1,778事業所



主要観光地の入込客数
 震災前(H22)470.3万人回



小袖海岸(久慈市)

これまでの主な取組



三陸鉄道北リアス線全線運行再開 (平成26年4月)

① 防災のまちづくり

■ 災害廃棄物(がれき)の処理

約584万トン[本県一般廃棄物約13年分]の処理を終了

大震災津波により約584万トンの災害廃棄物が本県で発生しましたが、県内外の自治体の協力や、多くの関係者・住民の皆様のご理解とご支援に支えられ、平成26年3月末までにその処理を終えました。

災害廃棄物の広域処理先

青森県	61,004ト
宮城県	4,326ト
秋田県	37,538ト
山形県	77,688ト
福島県	12,131ト
群馬県	7,673ト
埼玉県	1,109ト
東京都	106,007ト
神奈川県	162ト
新潟県	294ト
富山県	1,256ト
石川県	1,961ト
福井県	6ト
静岡県	3,207ト
大阪府	15,299ト
合計	329,661ト (1都1府13県)



宮古市赤前地区・宮古運動公園 平成23年11月撮影



同左 平成25年8月撮影

復興レポート
宮古市

■ 海岸保全施設等の復旧・整備

復興まちづくりと一体となった防潮堤・水門等の復旧・整備

被災した防潮堤等の海岸保全施設の復旧・整備に当たっては、高潮等の被害が予想される箇所について、仮防潮堤を築造する等の応急工事を実施したほか、津波、都市計画及び地震等の専門家で構成される「岩手県津波防災技術専門委員会」を設置し、各市町村から復興まちづくりの方向性を伺いながら、科学的・技術的な知見に立脚した防潮堤の高さや配置の検討を進め、平成23年10月までに本県沿岸を24の地域海岸に区分し、防潮堤等の高さを公表しています。

また、海岸保全施設の早期整備のため、事業用地の取得に当たり、任意交渉と平行した土地収用手続を進めてきたほか、工期短縮や資材不足等へ対応するため、工場製品の活用などの取組を進めてきました。

この結果、平成25年度末時点で、復旧・整備が必要な134箇所のうち、105箇所ですべて工事に着手するとともに、22箇所ですべて完了しています。

海岸堤防高さの設定 >> <http://www.pref.iwate.jp/kasensabou/kasen/fukkyuu/008326.html>

高田地区海岸の復旧工事の状況



被災前(平成22年3月)



被災直後



平成26年3月末

■ 環境放射能水準調査の実施

測定結果をリアルタイムで公表

生活空間の放射線量や、大気中のちり、降水(雨、雪)、水道水、農林水産物などに含まれる放射能を県内10地点で測定し、その結果をホームページで公表しています。

放射能に関する情報
>> <http://www.pref.iwate.jp/houshasen/>



サーベイメータによる測定

■ 再生可能エネルギー設備の導入支援

さらなる地域の防災力向上に向けて

地域の防災拠点となる市町村庁舎・消防署・病院や、災害時の避難所となる学校・公民館などへの太陽光発電設備、蓄電池、ソーラー街路灯などの設置を進めています。

また、避難階段への太陽光発電式防犯灯や応急仮設住宅団地内敷地への小型風力発電システムの設置など、公共施設への小規模クリーンエネルギー設備の導入を支援しています。



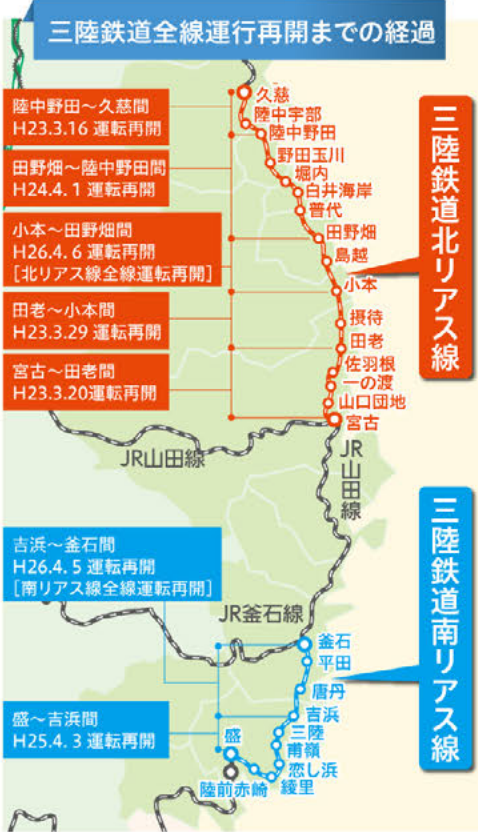
保育所に設置した太陽光発電設備(野田村)



庁舎屋上に設置した太陽光発電設備(洋野町)

②

交通ネットワーク



三陸鉄道の復旧

全国的に注目を浴びる中、平成26年4月に全線運行再開

三陸鉄道は、震災により、橋梁、レール、駅舎の流出など計317か所に及ぶ被害を受け、全線不通となりましたが、多くの企業、団体、個人の皆様からの支援により、平成26年4月に全線で運行を再開しました。

平成25年にはNHK連続テレビ小説「あまちゃん」に「北三陸鉄道」として登場し、全国的に注目を集めています。



津波により線路が流失 (田野畑村 平成23年3月)



南リアス線全線運行再開記念列車出発式 (大船渡市 平成26年4月5日)

三陸復興道路の整備

復興へ向け、かつてないスピードで整備中

災害に強い道路ネットワークを構築するため、三陸沿岸の縦貫軸及び内陸部と沿岸部を結ぶ高規格幹線道路等である「復興道路」、内陸部と沿岸部の各都市を結ぶ横断軸等の「復興支援道路」、沿岸部の防災拠点等へアクセスする「復興関連道路」をそれぞれ整備してきました。

中でも復興道路は、震災以降平成25年度末までに5区間43.2kmが供用され、残る区間についてもかつてないスピードで整備が進んでいます。



平成24年11月4日 釜石花巻道路(釜石～釜石西)起工式



平成26年3月23日 三陸沿岸道路高田道路開通式

③

教育・文化



沿岸被災地への訪問学習 (平成24年5月)



防災教育教材(DVD)を活用した授業 (平成26年6月)

文化・芸術による支援

文化芸術の力で子どもたちに笑顔を

復興支援の一環として、ルーヴル美術館学芸員を招いてのワークショップや、県立美術館職員が気軽に美術に触れ合い、体験する機会を提供する「あーとキャラバン事業」を実施しています。

また、被災地を対象に、小・中学校などを会場にして、器楽演奏、人形劇、演劇など、芸術家の派遣公演を行う「文化芸術による子どもの育成事業」を実施しています。



清里フィールドバレエ

埋蔵文化財保護を生かした地域社会の再興

震災復興事業との両立と歴史的な価値の発信

復興計画に基づく各種事業の進捗に伴い、遺跡の発掘調査量が増加する中、全国からの支援職員の受入や職員の増員により、復興の妨げとならぬよう迅速な調査を実施しています。

また、復興事業現場において、調査を行った遺跡の現地説明会を実施するなど、地元教育委員会と協力しながら、地域の皆様に向けてその歴史的な価値の発信に取り組んでいます。



遺跡の現地説明会 (大槌町)

いわての学び希望基金

子どもたちの「暮らし」と「学び」のために

県では、被災地の子どもたちの「暮らし」と「学び」を支援するため、「いわての学び希望基金」を設置し、全国・海外の皆様からの善意の寄附を広く募っています。

皆様からご支援いただいた寄附金は、14,081件、70億円(平成26年10月末現在)となり、親をなくした子どもたちへの奨学金のほか、高校生の教科書購入費用や部活動の遠征費など、被災地の子どもたちを末永く支援していきます。

問合せ先 復興局復興推進課 ☎019-629-6922

「いわての復興教育」

震災の教訓から得た3つの教育的価値『いきる』『かかわる』『そなえる』

郷土を愛し、その復興・発展を支える人材を育成するため、県内全ての公立小・中学校及び県立高等学校・特別支援学校では、「いわての復興教育」プログラムに基づきながら、震災津波の教訓から得た3つの教育的価値を育てています。

また、震災津波を風化させることなく、児童生徒が3つの教育的価値を学ぶことができるよう、副読本や防災教育教材(DVD)を活用しながら、各学校の実情に応じた取組を展開しています。

震災の教訓から得た3つの教育的価値

- ◆生命や心について『いきる』
震災津波の経験を踏まえた生命の大切さ・心のあり方・心身の健康
- ◆人や地域について『かかわる』
震災津波の経験を踏まえた人の絆の大切さ・地域づくり・社会参画
- ◆防災や安全について『そなえる』
震災津波の経験を踏まえた自然災害の理解・防災や安全



副読本 (小学校低学年用)

問合せ先 復興局復興推進課 ☎019-629-6147
「いわての復興教育」教育委員会事務局学校教育室 ☎019-629-5155
「防災教育教材(DVD)」総務部総合防災室

④ 生活・雇用

復興レポート
釜石市・大槌町



野田村門前小路第1災害公営住宅(平成25年3月25日完成)



釜石市平田地区災害公営住宅(平成26年1月24日完成)

■ 災害公営住宅の整備・住宅再建支援
恒久的な住宅供給のために

住宅を失った方への恒久的な住宅供給対策として、平成23年10月に「岩手県住宅復興の基本方針」を策定し、災害公営住宅の整備、民間持家住宅(自力再建)及び民間賃貸住宅への支援による住宅の再建支援に取り組んでいます。そのうち、災害公営住宅については、県と12市町村が連携して約6千戸を整備する計画であり、また、持家による住宅再建に対しても、市町村と共同で様々な補助事業を実施しています。

災害公営住宅市町村別整備戸数		
市町村	整備予定戸数	うち完成戸数
洋野町	4	4
久慈市	11	11
野田村	100	33
田野畑村	63	43
岩泉町	51	51
宮古市	793	52
山田町	777	72
大槌町	980	148
釜石市	1,342	237
大船渡市	801	128
陸前高田市	1,000	120
一関市	24	0
合計	5,946	899

(平成26年10月31日時点)

災害公営住宅の整備状況》 <http://www.pref.iwate.jp/kenchiku/saigai/kouei/009718.html>

住まいの改修・再建》 <http://www.pref.iwate.jp/kenchiku/saigai/saiken/index.html>

■ 応急仮設住宅におけるコミュニティの活性化
支え合い体制の構築

応急仮設住宅等における支え合い体制の構築のため、市町村、NPO、ボランティア等と連携し、生活支援相談員や仮設団地支援員による個別訪問、安否・見守り活動や生活相談等の支援を実施しています。そのほか、NPOや社会福祉協議会による「お茶っこ会」など、住民が気軽に集える場をつくり、応急仮設住宅におけるコミュニティづくりを実施しています。



応急仮設住宅集会所での交流

■ 県外避難者交流会の開催
ふるさとを離れた方への交流支援

被災により、1,700人余り(平成26年10月現在)の方が本県から他の都道府県に移動しています。県では、ふるさとから遠く離れている方のために、移動先の自治体や支援団体等が主催する交流会で復興局の職員が情報提供や相談対応を行っています。



県外避難者との交流会

県外避難者の避難先と人数	
地域	人数
北海道・東北	449
関東	869
中部	164
近畿	96
中国・四国	56
九州・沖縄	79
合計	1,713

(平成26年10月31日現在)

(参考) 内陸移動者の移動先と人数			
市町村	人数	市町村	人数
盛岡市	1,161	葛巻町	4
花巻市	412	岩手町	2
北上市	435	紫波町	196
遠野市	252	矢巾町	105
一関市	456	西和賀町	3
二戸市	22	金ケ崎町	21
八幡平市	7	平泉町	10
奥州市	178	住田町	194
滝沢市	203	軽米町	3
雫石町	33	合計	3,697

(平成26年10月31日現在)

■ 暮らしの安心ガイドブックの作成
生活再建に係る支援事業や相談窓口等を一冊に

平成23年11月から、被災者の生活再建に係る支援事業や相談窓口等を掲載した「暮らしの安心ガイドブック」を作成・配布し、被災した方々の不安や課題が解消されるよう、分かりやすい情報提供を行っています。「暮らしの安心ガイドブック」は県内外の被災者の皆様に漏れなく行き届くようにしており、また、最新版(平成26年7月発行)では、目の不自由な方にもご活用いただけるように、全ページに音声コードを配置しました。

暮らしの安心ガイドブック》 <http://www.pref.iwate.jp/saiken/jouhou/18239/001820.html>

問合せ先》復興局生活再建課 ☎019-629-6926

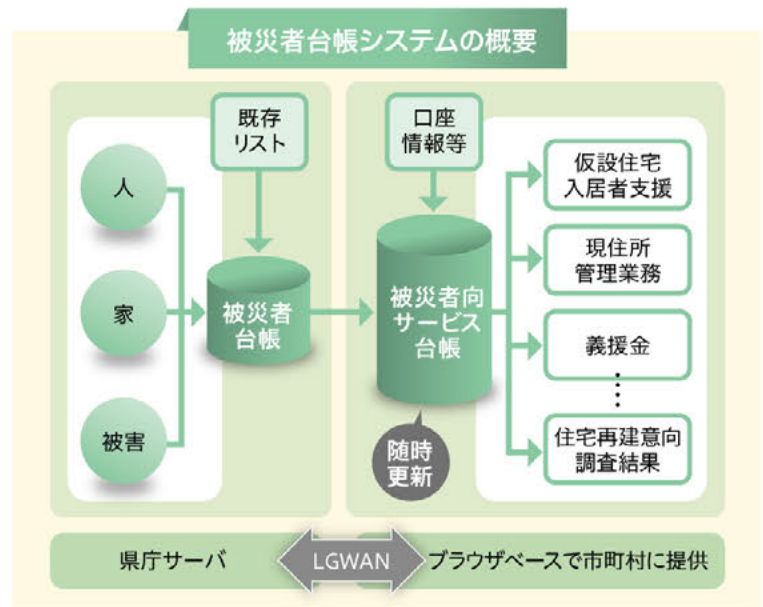


「暮らしの安心ガイドブック」
(平成26年度版)

■ 被災者台帳システムの構築
被災者情報の共有により
きめ細かな支援へ繋げる

京都大学・新潟大学を中心とする支援プロジェクトチームの協力により、「岩手県被災者台帳システム」を構築しました。このシステムを導入した7つの市町村では、発災時の住民基本台帳データに基づき、被災状況、支援の実施状況、相談記録や住宅の再建意向などの被災者情報を登録、庁内で共有し、きめ細かな被災者の生活再建支援に活用しています。

問合せ先》復興局生活再建課 ☎019-629-6926



■ 被災者相談支援センターの設置
生活の再建に向けて様々な相談に対応

生活再建に係る各種支援制度や今後の生活への不安、相続、離婚、不動産、債務など、様々な相談に対応しています。弁護士などによる専門家相談も行っています。



開設当初のセンター(釜石地区)

被災者相談支援センター
久慈地区 ☎0120-934-755 / 宮古地区 ☎0120-935-750
釜石地区 ☎0120-836-730 / 大船渡地区 ☎0120-937-700

岩手県庁被災者専用相談ダイヤル
☎0120-180-279(いわてにつなぐ)

■ 地域の雇用創出
被災求職者の生活の安定を図り、被災地の復興を支える

安定的な雇用及び地域の中核となる産業や地域経済の活性化に資する雇用を創出することにより、被災求職者の生活の安定を図り、被災地の復興を支えるため、被災求職者の雇入れに係る費用に対し、1人当たり3年間で最大225万円の助成を行っています。

平成25年度までの助成対象労働者数	
年度	人数
平成23年度	139人
平成24年度	5,332人
平成25年度	7,900人
合計	13,371人

⑤

保健・医療・福祉



応急仮設住宅集会所での健康チェック

■ こころのケアの取組

被災者1人ひとりの心に寄り添う

■ 岩手県こころのケアセンターの設置

被災者の精神的負担を軽減するため、県内外のチームの支援により、「こころのケア」活動を行い、発災から平成24年3月末までに、延べ30チームの派遣を受け入れ、延べ約9,800人の住民のケアに取り組みました。

この活動を引き継ぎ、平成24年2月に、岩手医科大学内に「岩手県こころのケアセンター」を、3月には、沿岸4箇所(久慈市・宮古市・釜石市・大船渡市)に「地域こころのケアセンター」を設置し、被災者一人ひとりに寄り添ったこころのケアを推進しています。



岩手県こころのケアセンター開所

■ いわてこどもケアセンターの設置

震災により大きなストレスを抱えながら生活する子どもたちの心のケアに対応するため、平成23年6月に「子どものこころのケアセンター」を宮古市に開設、気仙地区・釜石地区にも同センターを順次開設し、子どもや家族、保育士や教員からの相談を受けてきました。

また、平成25年5月には、中長期的に継続した支援を行う拠点として、クウェート国・日本赤十字社の支援により、「いわてこどもケアセンター」を矢巾町に開設しました。



多職種によるケアチーム

■ 被災地における医療確保支援

慣れ親しんだ地域で健康で安心して暮らせるように

■ 岩手県医師会高田診療所の開所

平成23年8月、気仙地区への医療支援を目的に、岩手県医師会が陸前高田市に診療所を開設しました。診療には、県内外からの応援医師があたり、地域医療の大きな支えになっています。



岩手県医師会高田診療所

■ 被災県立病院への民間からの支援

民間企業から高田・大槌・山田の各県立病院に、医療機器を搭載した本県初のドクターカー3台が寄贈され、応急仮設住宅等への訪問診療活動などに活用されています。

また、大槌病院には、民間団体から簡易型診療施設が寄贈され、現在も、その施設で外来診療が行われています。



県内初の認可となったドクターカー



簡易型診療施設(現在の県立大槌病院)

■ 被災地における保健活動

長期化する応急仮設住宅生活に対応した予防医療

県、市町村や関係機関が連携しながら、看護職員が応急仮設住宅等を定期的に巡回するなどし、血圧測定などの健康チェックから日常の健康相談、健康教育などを行っています。

また、県歯科医師会及び県歯科衛生士会の協力のもと、被災地に歯科医師・歯科衛生士を派遣し、歯科健診、歯科相談、歯磨き指導等の歯科保健活動を実施しています。

■ 被災地における高齢者の交流促進

いつまでも健康・元気で生きがいを創造

■ 被災地高齢者ふれあい交流促進

応急仮設住宅で生活している高齢者の方に、健康で元気な生活を送っていただけるよう、応急仮設住宅とその地域にお住まいの方を含めた皆さんの交流の場として「世代間交流ふれあいフェスタ」や「ふれあい運動教室」を開催しました。



ふれあい運動教室

■ 被災市町村地域支え合い体制づくり

高齢者の方が震災後の生活の中で、自ら新たな役割や生きがいを創造する地域活動に対して費用を助成しています。

岩泉町小本地区では、料理教室やノルディックウォーキング、マッサージ教室などの多彩な活動を毎月5~10回ほど行っているほか、地域のボランティアスタッフと協力し、菜園での野菜作りに取り組むなど、積極的に住民同士の交流を深めています。



岩泉町小本地区における交流

■ 「岩手県防災ボランティア活動推進指針」の策定

官民協働で効率的な防災ボランティア活動へ

ボランティア活動は、被災地のマンパワー不足を補うのみに留まらず、柔軟できめ細かな支援活動により、多くの被災者を支えました。

一方で、発災後しばらくの間、経験不足等に起因するNPO等の受入れをめぐる混乱や、関係機関の連携が十分に行われないなどの課題も指摘されました。

こうした課題を踏まえ、平成26年3月に官民協働で、「岩手県防災ボランティア活動推進指針」を策定し、非常時における円滑なボランティアの受け入れに備えています。



総合防災訓練

岩手県防災ボランティア活動推進指針 ▶ <http://www.pref.iwate.jp/fukushi/chiiki/fukushisuishin/023266.html>

■ 岩手県災害派遣福祉チームの設置

オール岩手で災害時の福祉を確保

今回の震災の経験を踏まえ、平成25年度に、県、福祉関係団体等と官民学共同により、大規模災害時において、避難所等の高齢者や障がい者などの福祉・介護等のニーズ把握や応急支援などを担う「岩手県災害派遣福祉チーム」を設置しました。

平成25年度には、所定の研修を受講した福祉専門職員約200名がチーム員として登録されました。



チーム員研修

岩手県災害派遣福祉チーム ▶ <http://www.pref.iwate.jp/fukushi/chiiki/fukushisuishin/023589.html>

⑥

地域コミュニティ

■ NPO等が行う復興活動を支援

復興支援の担い手の運営力を強化

NPOは、その機動力、ネットワーク、専門性を活かし、復興支援活動を始め様々な分野での課題解決に大きな役割を果たしています。

県は、平成25年度から「NPO等による復興支援事業」を実施し、NPO等が行う復興活動への助成や団体の運営基盤を強化するための支援を行っており、平成25年度は21団体に活動費助成を行いました。



助成事例

①

子どものキラキラ体験遊び支援

震災の影響で萎縮しがちな子ども達の感性を豊かに育てるため、アート遊びや、音遊びなどを実施しました。

助成事例

②

NPOを支える「被災地支援センター」の設置



被災地で活動するNPOへの支援や情報共有のための場として「被災地支援センター」を設置しています。

問合せ先▶ 環境生活部若者女性協働推進室 ☎019-629-5198

■ 住民主体のまちづくり支援

笑顔と希望あふれるふるさと再生

被災地がふるさとの景観を守り育て、新たに良好な景観を築き上げていくために、県では、平成24年度に「ふるさと景観再生の手引き」を作成しました。

また、平成25年度には、復興まちづくりが着実に進捗しているなか、地域らしい「景観」、親しみのある「ふるさと」再生のため、そこに住む予定の方々と「まちづくり検討会」等を開催し、「景観と暮らしのデザインガイド」をまとめました。



まちづくり検討会(野田村)

「景観と暮らしのデザインガイド」▶ <http://www.pref.iwate.jp/toshigesui/machizukuri/23155/027245.html>

■ 若者・女性の復興への参画

住民一人ひとりが復興の主役

県は、被災地で活動している若者や、県内の様々な分野で活躍している女性との意見交換会を開催してきました。

また、防災や復興に男女共同参画の視点を取り入れながら、復興が加速するよう、講演会とワークショップを組み合わせ「防災・復興について考えよう～男女共同参画の視点から～」を沿岸4地域(大船渡市、釜石市、宮古市、久慈市)で開催しました。



女性との意見交換会(平成25年7月)



若者との意見交換会(平成26年1月)

⑦

水産業・農林業



早期復旧に向け漁協が核となって漁船を一括整備(首節漁港)

■ 漁船・共同利用施設・種苗生産施設等の復旧・整備

漁業者の生産活動の早期再開を支援

壊滅的な被害を受けた本県水産業の早期復旧・復興に向けて、漁協による漁船や養殖施設の一括整備、集荷場や作業場等の共同利用施設の復旧・整備などに取り組んできました。

その結果、平成26年10月現在、漁船や養殖施設は目標の9割以上整備され、養殖ワカメの生産量は約7割、アワビの漁獲量は震災前の水準まで戻ると、漁業の復興が進んでいます。

今後は、更なる生産回復に向けて、新規就業者の確保や意欲ある漁業者の育成など、担い手対策を進めながら、6次産業化の促進などにより付加価値向上に取り組んでいきます。

漁船等の整備状況・種苗等の生産供給状況

区分	目標値	実績値	進捗率
漁船(累計)	6,693隻	6,444隻	96.3%
養殖施設(累計)	17,480台	17,329台	99.1%
サケ稚魚生産数(25年度)	4億尾	3.9億尾	97.5%
ウニ種苗供給数(25年度)	200万個	240万個	120.0%
アワビ種苗生産数(25年度)	100万個	120万個	120.0%

(平成26年10月31日現在)

■ 産地魚市場を核とした流通・加工体制の構築

地域に根ざした水産業の復興

漁業と流通・加工業の一体的な再生のため、県では、荷捌き施設、製氷・貯氷施設、冷凍・冷蔵施設、水産加工施設などの復旧・整備等、産地魚市場を核とした流通・加工体制の構築を進めています。

平成26年8月現在、被災した県内全ての産地魚市場が再開し、水揚量は震災前の約6割まで、製氷・貯氷、冷凍・冷蔵の各能力は概ね震災前の水準まで回復したほか、被災した水産加工事業所の8割が事業を再開しています。今後は、新設復旧した産地魚市場や水産加工場の連携により、漁獲から流通・加工までの一貫した高度衛生品質管理体制を構築することで、産地競争力を高め、震災により失った販路の回復・拡大を図っていきます。



高度衛生管理型魚市場の整備(平成26年4月完成 大船渡魚市場)

主要4港(久慈、宮古、釜石、大船渡)の製氷・冷蔵能力復旧状況

区分	震災前①	復旧状況②	②/①
製氷	535t/日	637t/日	119.1%
貯氷	13,160t	13,355t	101.5%
冷凍(凍結)	1,691t/日	1,551t/日	91.7%
冷蔵	136,912t	118,876t	86.8%

(平成26年8月31日現在)

■ 県産農林水産物の安全・安心と魅力の発信

風評被害対策と販路の回復・拡大

原発事故に伴う県産農林水産物の風評被害対策と、縮小した販路の回復・拡大に向け、全国の消費者やシェフ等を対象とした生活情報誌・電車広告・料理専門誌等でのPR、大都市圏での物産フェアや商談会、産地見学会などに取り組み、県産農林水産物の安全・安心と魅力の発信を行いました。

しかし、依然として乾いたけは価格低迷が続いているほか、関西圏ではワカメなどの海藻類で取引の縮小等の風評被害があることから、引き続き、消費者の信頼回復と、県産農林水産物の販路の回復・拡大に向けた取組を進めていきます。



食品事業者や流通業者とのマッチングを図る商談会の開催



首都圏シェフを招いての産地見学会の開催

本制度を活用し起業した事業

- 地域資源を活用した食品加工業
- 染織物製造販売
- 観光業
- 地元食材を活用した飲食業
- ソフトウェア開発
- 理美容業
- リラクゼーションカフェ
- 工務店及び関連資材販売 ほか

被災地における起業支援

さんりくの起業促進と魅力ある産業の創出

被災地における起業を促進し、魅力ある産業の創出による地域経済の活性化を図るため、平成25年度から「さんりく未来産業起業促進事業」により起業希望者の支援を実施しています。

平成25年度は25名の方がこの事業を活用して起業しており、平成26年度は29名の方が起業する見込みです。



業種も多岐に渡っており、産業や雇用の創出だけではなく地域コミュニティの再生にも寄与しています

問合せ先▶ 復興局産業再生課 ☎019-629-6931

三陸復興商品力向上プロジェクト

民間企業との協働による被災企業復興支援

県と民間との協働により、水産加工業などの販路回復や取引拡大を目指した商品力の向上を支援するため、平成24年10月に「三陸復興商品力向上プロジェクト」を立ち上げ、相談会を開催して県内108社(平成25年度末現在)の相談に応じたほか、東京都内の岩手県アンテナショップで、開発・改良した商品のテストマーケティングを実施しました。



相談会の様子

企業誘致の取組

被災地域の魅力ある雇用の場の創出

被災地域における魅力ある雇用の場の創出と経済の活性化を実現するため、復興支援制度を活用しながら、復興を支える企業の誘致に取り組み、平成23年度から25年度までの3年間で、沿岸地域へ13社の企業立地に繋がりました。



宮古市へ誘致・再建した企業

誘致企業数と新規雇用者数		
年度	誘致企業数	新規雇用者数
平成23年度	6社	333人
平成24年度	4社	95人
平成25年度	3社	74人
合計	13社	502人



「いわてDC」クロージングセレモニー

“いわてDC”“あまちゃん”を契機とした観光振興

観光入込客数が、概ね震災前の水準まで回復

平成24年4月から6月までの3ヶ月間、「いわてDC(デスティネーションキャンペーン)」を展開し、JRとのタイアップによる全国への情報発信や、二次交通の充実、旅行商品の造成・販売促進、県内各地における各種イベントの実施など誘客の強化に取り組みました。

また、平成25年度には、復興応援バスツアーの拡充や、NHK連続テレビ小説「あまちゃん」の話題性を生かした県北・沿岸地域の情報発信を強化し、「あまちゃん」の放映による誘客効果の維持拡大を行いました。

こうした取組の結果、平成25年度における県全体の観光入込客数が概ね震災前の水準まで回復(沿岸地域も7割以上まで回復)しています。

観光客入込客数の状況				
圏域	平成22年度	平成25年度	平成22年対比	
県央 (盛岡市、八幡平市、滝沢市、雫石町、岩手町、葛巻町、紫波町、矢巾町)	860万人回	999万人回	116.1%	
県南 (花巻市、北上市、遠野市、一関市、奥州市、西和賀町、金ケ崎町、平泉町)	1,117万人回	1,150万人回	102.9%	
沿岸 (宮古市、大船渡市、釜石市、陸前高田市、住田町、大槌町、山田町、岩泉町、田野畑村)	529万人回	403万人回	76.2%	
県北 (久慈市、二戸市、普代村、野田村、軽米町、九戸村、洋野町、一戸町)	280万人回	342万人回	122.1%	
合計	2,786万人回	2,894万人回	103.8%	

「いわて三陸復興フォーラム」の開催

復興の今を伝え、復興への参画を促進

被災地域の現状や復興の取組についての情報を発信するため、「いわて三陸復興フォーラム」を、県内・県外で開催し、復興の取組に対する理解や、継続的な支援、参画の促進を図っています。

今後も、継続的に開催することで、震災の記憶の風化防止に努めながら、県内外の皆様との継続的な連携を図っていきます。



「いわて三陸復興フォーラム in 名古屋」(平成25年12月)

海外へ向けた情報発信

世界に向けて復興に立ち上がる本県の姿を発信

復興支援を頂いた皆様に深い感謝の意を伝えるとともに、復興に向けて立ち上がる本県の情報を、海外へ向けて発信しています。

平成25年度は、米国ニューヨーク市において、平成26年度は、仏国パリ市において「東日本大震災津波岩手県復興報告会」を開催し、知事から復興支援に対する御礼と復興の取組を紹介するスピーチを行っています。



平成25年8月(ニューヨーク) トモダチでありがとう～東日本大震災津波岩手県復興報告～

「いわての復興を自治の進化に」シンポジウムの開催

全国からの応援に感謝をこめて

岩手の復興のため、全国から来て頂いている多くの応援職員の皆様への感謝をこめて、「いわての復興を自治の進化に」シンポジウムを開催しました。職員からの発表という形で、復興の進捗状況や課題を全国に発信し、岩手と全国の自治体、応援団体の職員等との絆を深めながら、今後の継続的な支援への理解を深めていただく機会としています。



第1回シンポジウム(平成26年2月)

岩手県知事 達増拓也 presents!
岩手県公式インターネット番組
『いわて希望チャンネル』

震災の記憶の風化が進む中で、より多くの人々に本県への関心を持っていただきたいという想いを伝えるため、達増知事がメインパーソナリティを務め、インターネット番組「いわて希望チャンネル」を毎月1回、「ニコニコ生放送」で配信しています。



いわて希望チャンネルURL▶ <http://ch.nicovideo.jp/iwate-kibou>

いわて希望チャンネル Facebook▶
<http://www.facebook.com/prefiwatewebtv>

過去放送分はこちら▶
<http://www.pref.iwate.jp/kouchoukouhou/023509.html>

岩手への想いに応えるために
スマホ向け岩手情報アプリ
『e!いわて』いわてつながり情報局

岩手県に関心を寄せる方々が、被災地の情報に手軽にアクセスできるよう、産学官連携でスマートフォンアプリ「いわてつながり情報局(e!いわて)」を製作し、平成26年2月7日から岩手の復興に関連する情報をお届けしています。

(システム開発協力:株式会社アイシーエス)



問合せ先▶ 復興局復興推進課 ☎019-629-6922



行方不明者の捜索(大船渡市)

自衛隊による活動

138日間にわたり多方面での支援活動を展開

東日本大震災津波では、10万7千人という空前の規模で自衛隊が派遣されました。陸・海・空の3自衛隊が、訓練以外で統合任務隊として運用されたのは初めてのことです。



音楽隊によるミニコンサート(田野畑村)

自衛隊は、被災者の救出や行方不明者の捜索のほか、がれきの撤去、支援物資の運送、給水、給食のほか、女性自衛官による「お話し隊」が避難所を巡回して傾聴活動を行うなど、多方面にわたる活動を展開しました。

消防による活動

全国からの援助隊と地元消防団により活動を展開

本県からの緊急消防救助隊派遣要請により、全国からの緊急消防救助隊の派遣数が延べ2,279隊、7,633人にのぼり、名古屋市消防局が県内消防活動全般の指揮をとるなど、多くの都道府県隊の支援による活動が行われました。



緊急消防援助隊(大船渡市)



県外から被災地に到着した消防車群(陸前高田市)

被災市町村への職員派遣

全国の自治体から1,000人を超える派遣

今回の震災により、沿岸の5市町村で108人の職員の方が犠牲となりました。このような中、発災直後の3月末に、名古屋市から陸前高田市に対して職員派遣の申出があり、その後も県内及び全国の自治体から同様の申出を受け、平成23年度は171人を、平成26年3月までに1,000人を超える派遣をいただき、現在も全国の自治体に協力を依頼しています。



大槌中学校生徒会による派遣職員に感謝する会(平成25年12月)

久慈市	野田村	田野畑村	岩泉町	宮古市
1	23	25	12	101
山田町	大槌町	釜石市	大船渡市	陸前高田市
58	151	134	85	113
合計				703

(平成26年11月1日現在)

	必要人数	派遣決定数	一般事務					その他
			うち用地関係	土木	建築	保健師		
平成23年度(H24.3.31現在)	—	171	97	—	42	10	12	10
平成24年度(H25.3.31現在)	366	321	145	21	127	21	16	12
平成25年度(H26.3.31現在)	628	596	294	68	204	38	21	39

※その他は、機械技師、電気技師、看護師、社会福祉士、保育士、理学療法士、司法書士など

全国から215人の警察官が本県へ特別出向

被災地の安全と安心の確立のために

沿岸市町村の治安維持機能が極めて憂慮すべき状況になる中、1都15県から延べ215人の警察官が本県に特別出向し、被災地の良好な治安の確保のため、応急仮設住宅団地の巡回やパトロール活動をはじめ、交通安全活動、犯罪の取締りなどに従事しています。

また、大船渡・釜石・宮古署では、沿岸地域の児童・幼児を対象に、ヒーロー寸劇等による防犯啓発活動も行っています。



特別出向警察官着任式



警察官によるヒーロー寸劇

医療チームの派遣

全国各地の医師による被災地医療支援

発災直後には、国の要請を受けた全国のDMATが来援し、29都道府県の128チームがトリアージや応急処置、病院支援の活動を展開しました。

また、発災後間もなく岩手医科大学に設置された「災害時地域医療支援室」が窓口となって受入調整を行い、平成23年12月末までの間に88チーム、延べ4,463人の県外医師による医療支援が行われました。

さらに、岩手県医師会(JMAT岩手)による、内陸部から沿岸被災地への診療応援活動により、2つの県立病院がその支援を受けました。



参集したD-MATによる打合せ(宮古市 平成23年3月)

海外からの支援

つながりに感謝

被災地では、米軍と自衛隊による「トモダチ作戦」をはじめ、米国・英国・中国などの救援隊も救援活動にあたりました。

また、発災直後から、多くの国々から支援物資が届けられたほか、世界各国からの義援金や寄附金が、三陸鉄道の復旧や被災地における保育所・学童施設・ホールなどの施設整備に役立てられました。



海外からの救援隊(大船渡市 平成23年3月)

これまでのいただいた支援の状況

東日本大震災津波発災以降、国内外の皆様から多大な御支援や励ましをいただき、心より厚く御礼を申し上げます。

活動ボランティア受入人数
延べ510,137人(平成26年10月末現在)
今後とも、被災者と被災地に寄り添うご支援を引き続きお願いいたします。

問合せ先▶ 岩手県社会福祉協議会ボランティア・市民活動センター ☎019-637-9711

寄附金 194億円
(平成26年10月末現在)
被災者の生活支援や住宅再建支援、雇用確保や産業の復興に活用させていただいております。

問合せ先▶ 保健福祉部保健福祉企画室 ☎019-629-5408

義援金 527億円
(平成26年10月末現在)
被災された方々の生活再建のために活用させていただいております。

問合せ先▶ 復興局生活再建課 ☎019-629-6917

いわての学び希望基金 70億円
(平成26年10月末現在)
教育の充実のための奨学金、教科書や制服の購入費、修学旅行や部活動への参加経費など、被災地の子どもたちの「暮らし」と「学び」のために活用させていただいております。

問合せ先▶ 復興局復興推進課 ☎019-629-6922

ふるさといわて応援寄付(ふるさと納税) 8億円
(平成26年10月末現在)
岩手の美しい自然環境を保護し、次世代に引き継いでいく事業や、これからの岩手を担う人材の育成や子育て支援、災害復旧対策のための資金として活用させていただいております。

問合せ先▶ 総務部税務課 ☎019-629-5144

復興が着実に進むよう、全力で取り組んで参りますので、引き続き、御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

三陸創造プロジェクト



三陸ジオパーク 北山崎(田野畑村)

「三陸創造プロジェクト」は、長期的な視点に立ったうえで、三陸地域が持つ特性と環境変化を最大限に生かし、そこで展開される生き方、暮らしやなりわいが生み出す「三陸ブランド」を確立させながら、より多くの人々をひきつけ、さらに交流・連携を深めることで多様な人材が育まれる、将来にわたって持続可能な新しい三陸地域の創造を目指すものです。

東日本大震災津波伝承まちづくりプロジェクト

いつまでも忘れない・災害に強いひとづくり、災害に強いまちづくり

取組例≫ 津波復興祈念公園の整備



震災の経験や教訓を継承しつつ、犠牲者を追悼・鎮魂するとともに、安全なまちづくりと一体となった地域の賑わいの再生に資する「高田松原津波復興祈念公園」の整備に向けた取組を進めています。

さんりくエコタウン形成プロジェクト

環境と共生したエコタウンを実現します

取組例≫ 再生可能エネルギーの導入促進

再生可能エネルギーに関するセミナー・勉強会の開催や、情報発信、導入支援マップの公開などにより、地域に根ざした再生可能エネルギーの導入を促進し、災害時にも地域でエネルギーを賄うことができる自立・分散型エネルギー供給体制の基盤づくりを進めています。



さんりく産業振興プロジェクト

三陸らしい個性豊かで競争力のある産業を構築します

取組例≫ 新素材・加工産業の集積促進

「いわて発」高付加価値コバルト合金をはじめとする特殊合金等の新素材の開発や製品化、販路開拓を支援し、金属素材の製造や加工を行う産業の集積を図ることによって、新たな雇用の創出を促進します。



新たな交流による地域づくりプロジェクト

定住・交流人口の拡大による活力みなぎる地域をつくります

取組例≫ 世界ジオパーク認定を目指した「三陸ジオパーク」の推進



平成25年9月に認定を受けた「三陸ジオパーク」は、自然と文化のつながり、震災の被害の大きさを物語る遺構など、壮大なスケールのジオを体感できます。こうした情報を国内外に発信しながら、更なる交流人口の拡大のため、世界ジオパーク認定を目指した取組を推進します。

国際研究交流拠点形成プロジェクト

国際的研究拠点・国際学術研究都市を構築します

取組例≫ 国際リニアコライダー(ILC)の実現に向けた取組

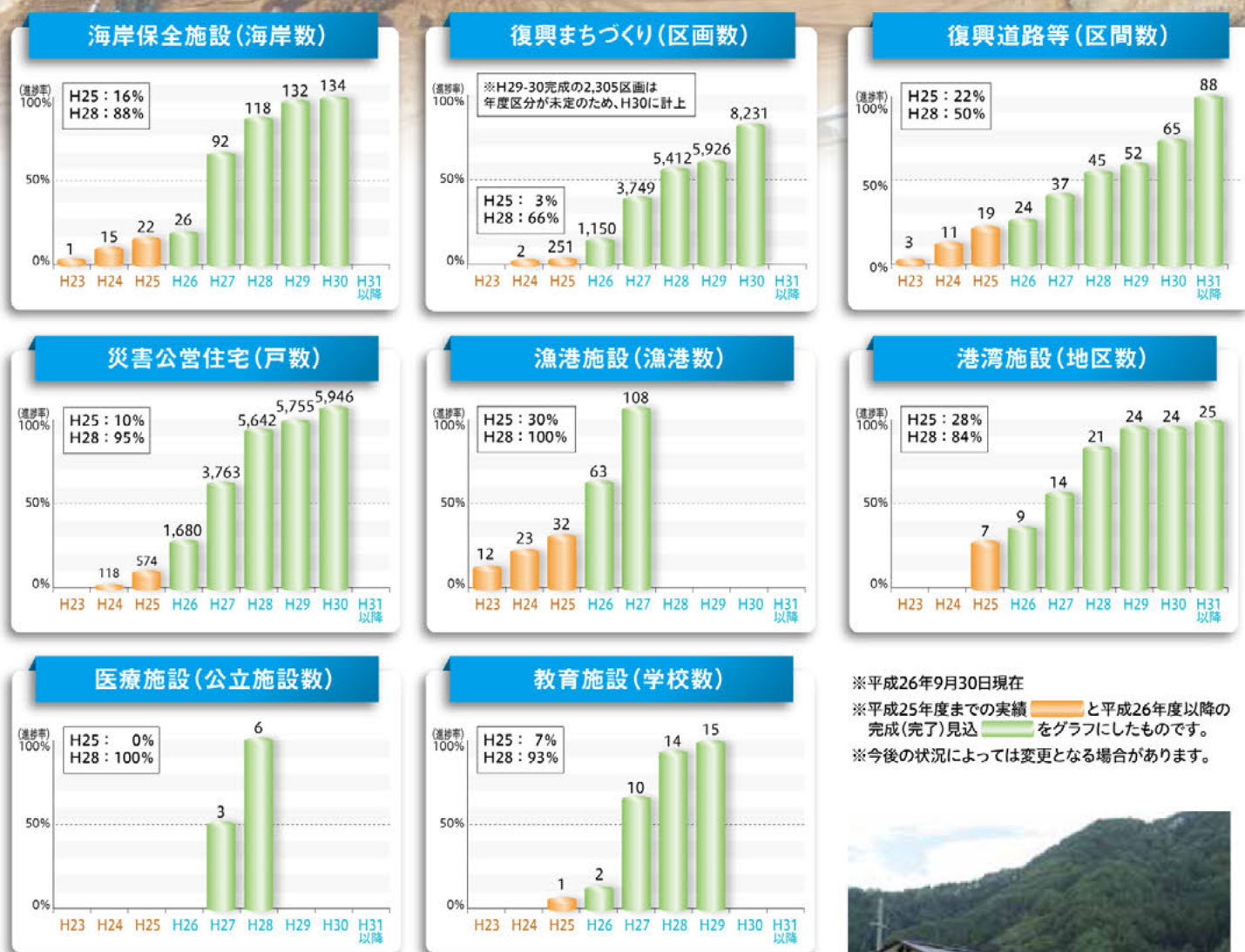
ILCは、全長31～50kmの地下トンネルに建設予定の最先端の素粒子研究施設です。平成25年8月23日、専門組織の「ILC立地評価会議」は、岩手県南から宮城県北にかけての北上山地を国内建設候補地に決定。実現すると、国際的な学術研究都市が形成され、研究の促進や産業の振興などが期待されます。



主な復旧・復興事業の今後の見通し



防災集団移転住宅団地整備(宮古市 平成26年11月)



※平成26年9月30日現在
 ※平成25年度までの実績(オレンジ)と平成26年度以降の完成(完了)見込(緑)をグラフにしたものです。
 ※今後の状況によっては変更となる場合があります。



建設中の災害公営住宅(大槌町 平成26年9月)

社会資本の復旧・復興ロードマップ

県では、復興まちづくりや災害公営住宅などの8分野について、復興事業の動きや今後の見通しを『社会資本の復旧・復興ロードマップ』として取りまとめ、県のホームページなどでお知らせしています。

社会資本の復旧・復興ロードマップ≫ <http://www.pref.iwate.jp/anzen/machizukuri/18200/index.html>

“いわて復興だより”ダイジェスト



いわて復興だより

「いわて復興だより」は、多くのご支援に対する感謝の気持ちを込め、岩手県の復興・復興状況について発信することを目的に、平成23年7月1日の創刊以来、月2回(1日・15日)発行し、「いわての今」を伝えています。

また、平成25年5月より公開している「いわて復興だよりWeb」では、動画と写真たっぷりに復興状況を生き生きと伝えています。

問合せ先
復興局復興推進課 ☎019-629-6925

いわて復興だより

いわて復興だよりWeb

H23.10.15 第7号
宮古水産高 北大の支援で乗船実習へ

船を失い乗船実習ができなくなった県立宮古水産高に船を派遣。練習船「おしよる丸」を無償貸与した北海道大学水産学部へ感謝の意。

H23.11.1 第8号
岸壁に乗り上げた貨物船を撤去

釜石港の岸壁に乗り上げた100mもの大型貨物船を撤去。7か月ぶりに海に下ろされた貨物船「アジアシンフォニー」は、修復のために広島へ。

H23.12.15 第11号
復興へ向け金澤翔子氏の作品をロゴに

「三陸復興」を新たなシンボルに。復興への機運醸成のため、女流書家金澤翔子氏の作品をイベントや広報媒体などで活用。

H26.11.1 第74号
海の安全と復興を祈願

大漁旗をたなびかせた漁船が勇壮に釜石湾内を周回する「曳き船まつり」が行われ、港は大勢の人が集まり活気にあふれました。

H24.1.1 第12号
ショッピングセンター 営業を再開

津波被害で閉鎖していた大槌町のショッピングセンターが、平成23年暮れに営業を再開。地元店を含む約45店舗が入居、約300名の地元雇用が生まれた。

H24.2.1 第14号
“奇跡の一本松”の苗木が名古屋へ

3年後をめどに名古屋市動物園に移して育てることで河村名古屋市長と戸羽陸前高田市長が合意。苗木のほか市職員の派遣継続も決定。

H24.3.15 第16号
震災後一年を迎え県と陸前高田市が合同追悼式

震災から1年目の3月11日に県と合同で陸前高田市が追悼式を開催。遺族ら3,000人以上が参列。

H24.6.1 第21号
“東北六魂祭 2012盛岡”

魂を奮い立たせ震災を乗り越えようと、前年の仙台に続き盛岡で開催。パレードでは、東北6大祭に加え、地元盛岡市から盛岡秋まつりの山車も参加。

H24.9.15 第27号
“希望の気球プロジェクト”

陸前高田市の小友小学校で、復興の進む街を熱気球から子どもたちが見るプロジェクトを実施。子ども達からは「空を飛んでみたいだった」などの感想が。

H25.3.1 第36号
三陸鉄道 新型車両の安全祈願祭

大船渡市の南リアス線運行部車両基地で行われた新車両の安全祈願祭。クウェート国からの支援資金で製造された車両は、南リアス線盛岡～吉浜駅を運行。

H25.7.15 第44号
田野畑村でサケふ化場の竣工式

田野畑村で行われた新たなサケふ化場の竣工式。施設は隣接する普代村と共同利用し、毎年約1,200万匹の稚魚を育成し、来春に放流。

H25.9.1 第47号
“109KAMAISHI”が期間限定でオープン

若い女性を中心に人気の東京・渋谷のファッションビル「SHIBUYA109」が釜石に出店。期間限定の店名は「SHIBUYA109 KAMAISHI」。釜石の女子中学生の手紙がきっかけ。

H26.1.1 第55号
大槌中学校生徒会が“派遣職員に感謝する会”開催

全国の自治体や企業から来町した皆さんへ感謝の気持ちを伝えようと同校生徒会が発案。生徒会長の新田亮介君は「皆さんの笑顔が見ることができたので嬉しい」と語る。

H26.3.1 第59号
JR釜石線「SL銀河」4月12日から運行開始

JR東日本盛岡支社は、観光面からの復興支援と地域活性化のため、釜石線(花巻駅～釜石駅間)でのC58型蒸気機関車「SL銀河」の運行開始を発表。

H26.5.1 第62号
大船渡市新魚市場が完成

新魚市場は4階建。衛生・鮮度管理の体制とシャベット海水を作る製氷施設が特長。また家族で楽しめる展示スペースや見学デッキ、展望デッキも設けられ、観光の新拠点にも。

H26.8.1 第68号
吉里吉里海岸海水浴場が4年ぶりに復活

本格的な海水浴シーズンを迎え、本県の海水浴場が、新たに3ヶ所復活。大槌町の吉里吉里海岸は、釜石・大槌地域で震災後初の海開きとなった。

県外へ避難している皆さまにも「いわてグラフ」や様々な支援情報とともに送付しています。岩手県公式ホームページへの掲載のほか、東京、名古屋、大阪、福岡の各県外事務所、アンテナショップ「いわて銀河プラザ」でも配布しています。

これまでの復興の歩み

2011.3~2014.11

岩手日報2011年3月13日付



▶ 2011

- 3月 11日 東日本大震災津波発生
岩手県災害対策本部設置
- 13日 県内の避難者数が最多の5万4429人に(在宅含む)
- 15日 航路等の啓開により、県内港湾で初めて釜石港の荷役制確保
- 16日 釜石港に救援物資を積んだ第1船入港
三陸鉄道北リアス線 陸中野田~久慈間の運行再開(以後、4月1日までに他2区間において運行再開)
- 19日 応急仮設住宅の建設を開始(陸前高田市・釜石市)
- 4月 9日 県内初となる応急仮設住宅への入居開始(陸前高田市)
- 11日 「がんばろう!岩手宣言」発表
「岩手県東日本大震災津波復興委員会」設置
- 29日 東北新幹線が全線復旧
- 5月 6日 天皇皇后両陛下が被災地をご訪問(釜石市・宮古市)
- 25日 文仁親王同妃両殿下が被災地をご訪問(~26日、大槌町・山田町)
- 6月 2日 宮古市に「子どものこころのケアセンター」を設置
- 6日 正仁親王妃殿下が避難所をご訪問(雫石町)
- 20日 「東日本大震災復興基本法」成立
- 29日 平泉の文化遺産が世界遺産に登録
- 7月 3日 「東北復興平泉宣言」発表
- 13日 県内で初めて宮古港のコンテナ貨物取扱い再開
- 15日 三陸鉄道が2014年4月までに全線運行再開の方針を決定
- 26日 自衛隊が本県での支援活動任務を終了、県庁前で感謝式開催
- 8月 5日 皇太子同妃両殿下が被災地をご訪問(大船渡市)
- 11日 県内全ての応急仮設住宅が完成
県が「岩手県東日本大震災津波復興計画復興基本計画」を策定
- 31日 県内の全ての避難所を閉鎖
- 9月 16日 憲仁親王妃殿下が被災地をご訪問(住田町・陸前高田市)
- 28日 東京都が岩手県内のがれき受け入れを発表、初の広域処理へ
- 10月 3日 岩手県産業復興相談センター開所
- 11月20日 復興道路が着工(三陸沿岸道路(尾肝要道路))(田野畑村)
- 12月 7日 「東日本大震災復興特別区域法」成立
- 26日 県が復興特区プロジェクトチームを設置

▶ 2012

- 2月 15日 岩手医科大学内に「岩手県こころのケアセンター」を開設
- 10日 国が復興庁を設置し、盛岡市に岩手復興局、宮古市と釜石市に支所を設置
- 26日 釜石港湾口防波堤の復旧工事に着工(釜石市)
- 3月 8日 県内初の防潮堤復旧工事に着工(宮古市金浜海岸)
- 11日 東日本大震災津波から1年、各地で追悼式などが挙行される
- 28日 沿岸4箇所に「地域こころのケアセンター」を設置
- 4月 1日 「いわてDC(デスティネーションキャンペーン)」を開催(~6月30日)
- 5月 26日 東北六魂祭が盛岡で開催され、2日間で24万人を超える人出を記録
- 6月 11日 県が「復旧・復興ロードマップ(総括工程表)」を発表
- 14日 県内で初めて災害公営住宅の建設に着手(釜石市平田地区)
- 9月 12日 陸前高田市「奇跡の一本松」を保存のため伐採
- 10月10日 県内で初めて、高台移転のための用地造成工事に着工(田野畑村)

- 11月25日 大震災津波後、県内で初めてとなる復興道路の供用開始
(東北横断自動車道釜石秋田線(宮守~東和))(遠野市、花巻市)
- 12月10日 県内で初めて災害公営住宅への入居開始(大船渡市盛中央団地)
- 13日 大槌町の蓬莱島の灯台が再点灯
- 19日 文仁親王同妃両殿下が被災地をご訪問(~20日、陸前高田市・大船渡市・遠野市)

▶ 2013

- 1月 26日 大阪府において「いわて三陸復興フォーラム」を開催
- 2月 1日 県内全ての応急仮設住宅団地500メートル以内にバス停の設置を完了
- 6日 東京都において「東北連携復興フォーラム つなぐ力を」を開催
- 9日 宮古市において「いわて三陸復興フォーラム」を開催
- 3月 2日 JR大船渡線気仙沼~盛間でBRTによる運行開始
- 10日 復興道路「宮古盛岡横断道路(築川道路)」供用開始(盛岡市)
- 11日 東日本大震災津波から2年、各地で追悼式などが挙行される
- 25日 県内で初めてとなる移転先宅地の造成工事が完了(宮古市追切・浦の沢地区)
- 4月 1日 久慈市を舞台としたNHK朝の連続テレビ小説「あまちゃん」放映開始
- 3日 三陸鉄道南リアス線盛~吉浜間の運行再開
- 5月 8日 矢巾町に「いわてこどもケアセンター」を設置
- 24日 「三陸復興国立公園」創設
- 7月 3日 「奇跡の一本松」保存事業完成式開催
- 4日 天皇皇后両陛下が本県被災地をご訪問(~5日、遠野市・住田町・大船渡市・陸前高田市・一関市)
- 25日 2016年国体の岩手開催が正式決定
- 8月 5日 正仁親王同妃両殿下が被災地をご訪問(~6日、岩泉町・田野畑村・野田村・久慈市)
- 23日 「ILC立地評価会議」が国際リニアコライダー(ILC)の国内建設候補地を北上山地に決定
- 27日 米国ニューヨーク市で「トモダチでありがとう」震災復興報告会を開催
- 9月 24日 県沿岸部を中心とした「三陸ジオパーク」が日本ジオパークに認定
- 10月13日 復興道路「三陸沿岸道路(普代道路)」供用開始(普代村)
- 11月 1日 皇太子同妃両殿下が被災地をご訪問(~2日、釜石市)
- 2日 大船渡市において「いわて三陸復興フォーラム」を開催
- 12月19日 愛知県において「いわて三陸復興フォーラム in 名古屋」を開催

▶ 2014

- 2月 6日 シンポジウム「いわての復興を自治の進化に」を開催(~7日)
- 13日 東京都において「東北4県・東日本大震災復興フォーラム」を開催
- 3月 2日 復興道路「三陸沿岸道路(尾肝要道路)」供用開始(田野畑村)
- 11日 東日本大震災津波から3年、各地で追悼式などが挙行される
- 23日 復興道路「三陸沿岸道路(高田道路)」全線供用開始(陸前高田市)
陸前高田市で土砂搬出用のベルトコンベア「希望のかけ橋」稼働開始
- 31日 本県の災害廃棄物処理が終了
県が「岩手県東日本大震災津波復興実施計画(第2期)」を策定
- 4月 5日 三陸鉄道南リアス線 吉浜~釜石間の運行再開により、全線において運行再開
山田町立船越小学校、被災校舎から移転・新築した新校舎での授業開始、被災3県で初
- 6日 三陸鉄道北リアス線 小本~田野畑間の運行再開により、全線において運行再開
- 12日 釜石線花巻~釜石駅間でSL銀河が営業運転を開始
- 23日 大船渡市新魚市場の完成式典開催
用地取得迅速化のための「東日本大震災復興特別区域法の一部を改正する法律」成立
- 5月 29日 リアスハーバー宮古の復旧工事完了・供用再開
- 6月 23日 県栽培漁業協会が震災後初のアワビ種苗を出荷
- 26日 国・県・陸前高田市による「高田松原津波復興祈念公園基本構想」策定
- 8月 24日 復興道路「宮古盛岡横断道路(平津戸松草道路・区界道路)」の着工により
県内の復興道路が全て着工
- 30日 仏国パリ市で「東北復興祭「環<WA>」in PARIS」開催(~31日)
- 11月 7日 // 「つながりに感謝」震災復興報告会を開催



第71回国民体育大会岩手県準備委員会 第7回いわて国体・希望いわて大会実行委員会



人口/世帯数

1,284,384人 / 518,191世帯 (平成26年10月1日現在)

位置/面積

岩手県は本州の北東部に位置し、東西約122km、南北約189kmと南北に長い楕円の形をしています。その広さは北海道に次ぐ面積(15,278.89km²)であり、日本の面積の4%を占めています。

県旗・県章

県旗は、県章をなんど色(グリンニッシュグレイ)の地色の旗面中央に白ぬきしたもので、昭和40年3月6日に制定しました。

県の鳥

キジ 県内全域に生息しています。雄は光った帯緑黒色の美しい羽と長い尾羽を持ち、雌は地味で体が淡黄かっ色、体一面に黒点があります。気品にあふれ、勇壮で愛情こまやかな習性は県民性を表しています。

県の木

ナンブアカマツ 県内いたるところに生息している本県産の代表的樹種です。特に古生層の丘陵地帯に多く、早く成長します。油脂分が多いため、磨けば磨くほど優雅な光沢を出し、純和風高級材として質、量ともに日本一を誇っています。

県の花

キリ 本県産のキリは、材の光沢が強く淡紫色をおびて美しいので「南部の紫桐」として知られています。

県の魚

南部さけ 体長約90cm、体は紡錘形をしていて、秋、故郷の川をさかのぼり、上流の砂底に産卵します。岩手県は、秋サケでは、本州一の漁獲量を誇り、昔から多くの県民に親しまれてきた魚です。



県旗・県章



キジ



ナンブアカマツ



キリ



南部さけ



岩手県へのアクセス

(北陸新幹線 長野～金沢間は平成27年3月14日開業予定)

新幹線 盛岡駅まで

東京	約2時間10分
名古屋	約4時間10分
大阪	約5時間10分
福岡	約7時間45分

航空 いわて花巻空港まで

札幌	約55分
名古屋	約70分
大阪	約80分
福岡	約120分

東北自動車道 盛岡ICまで

東京	約5時間30分(東北道)
名古屋	約10時間30分(東名・首都高速・東北道経由)
大阪	約13時間(名神・北陸・磐越・東北道経由)

広げよう 感動。伝えよう 感謝。



第71回国民体育大会

2016 希望郷 **いわて国体**

冬季大会

スケート・アイスホッケー競技会
2016年1月27日(水)～31日(日)
スキー競技会
2016年2月20日(土)～23日(火)

本大会

2016年10月1日(土)～11日(火)
水泳競技
2016年9月4日(日)～11日(日)

第16回全国障害者スポーツ大会

2016 希望郷 **いわて大会**

2016年10月22日(土)～24日(月)

写真提供 岩手県建設業協会/岩手日報社/大槌町/大船渡市/釜石市/久慈市/JR東日本盛岡支社/田野畑村/東北地方整備局/野田村/山田町/陸前高田市 (五十音順・敬称略)

いわて
復興の歩み